

社会福祉法人万葉の里 令和4年度 事業報告

I. 令和4年度 事業総括	1
II. 障害者センター事業部門	2
障害者センター事業部門全体総括	
1. 地域活動支援センターつばさ	4
2. 生活介護事業 太陽	12
3. 自立訓練事業（生活訓練・機能訓練）はばたき	16
4. 就労継続支援事業B型 どーむ	21
5. 短期入所・日中一時支援事業えんじゅ	25
6. 保健衛生事業	31
III. KOCO・ジャム事業部門	35
KOCO・ジャム事業部門全体総括	
1. 生活介護事業この里	38
2. 共同生活援助事業 ケアホームひかり	42
ケアホームこの葉	
3. KOCO・ジャム短期入所事業	46
4. 居宅介護事業ウイング	50
IV. 基幹相談支援センター部門	53
V. 法人全体事業	63
VI. 理事会・評議員会等	66
巻末資料：令和4年度 障害者センター利用状況一覧	67
令和4年度 KOCO・ジャム利用状況一覧	

I 事業総括

令和4年度事業運営状況について

理事長 室 地 隆 彦

令和4年度は、引き続き新型コロナ感染予防対策を継続しながらの事業運営となった。また、法人設立20周年を迎える年度、中期計画の実施初年度、障害者センターの第6期(令和5年度～令和9年度)指定管理者の指定に向けた準備の年度ともなり、様々な業務が重なった年度ともなった。

新型コロナの感染については、生活介護事業太陽で7月末から職員・利用者に陽性者が多発し、8月4日から11日の期間、利用の自粛のお願いすることとなった。グループホームでは、7月末から9月まで2か月にわたり、順次感染者が発生したため、ホーム内での隔離対応を実施した。そのため感染拡大により利用を見合わせる方や、グループホームでは、自宅へ戻る利用者もあり、利用率が伸びないなど経営面での影響も少なからずあった。また、感染対策を取るうえで、産業医との連携の必要性を改めて再認識することとなった。

法人設立20周年を迎えるにあたっては、コロナ禍という制約がある中で、広報誌「ことのは」の特集で、法人の歩みや関係者のインタビューなどを取り上げるとともに、利用者による「万葉の里 設立20周年ポッチャ大会」を開催した。ご自身が投げたボールが転がる先を見て、一喜一憂する様子を伺い、また、普段、あまりない、競うという経験を通じて、皆さんに楽しんで頂ける企画となったのではないかと。

事業運営、特に中期計画で取り上げた事業の実施にあたっては、令和4年度は、その初年度でもあり、計画に基づく事業運営を目指し、実施の体制整備として障害者センターでは、全ての事業で「運営委員会」を設置し、取り組んだ。障害者センター事業部門では、一般相談と計画相談との連携による相談支援の充実(つばさ)、看護師と支援員の連携による医療的ケアを必要とされる方の受け入れ体制の整備(太陽)、生活訓練・機能訓練の運営形態の変更(見直し)による支援とその周知、相談支援事業所との連携(はばたき)、業務部門の見直し(どーむ)、週末の日中利用希望者の増加に伴う対応(えんじゅ)。またKOCO・ジャム事業部門では、利用者の確保や利用率の向上、支援数・支援時間を増やすことによる安定した経営。基幹相談支援センター部門では、多職種・他分野連携の要の役割を果たす、を掲げ、各事業部門で取り組んだ。各事業部門で進捗状況の差はあるものの、例えば、えんじゅの日中一時支援事業では、希望者の増加に伴う受け入れに、7月から障害者センター2階の多目的室を使うことで、要望に応え、利用時間の増加につながっている。なお、利用者の獲得・利用率の向上については、障害者センター事業部門、KOCO・ジャム事業部門とも目標としている値には届いておらず、経営の安定の側面からも、更なる工夫と努力が必要である。

障害者センターの第6期(令和5年度～令和9年度)指定管理者の指定に向けた準備については、夏に第6期(令和5年度～令和9年度)指定管理者申請を行い、無事、指定を受けることができた。併せて、指定管理者の指定に伴い、5年に一度更新する、給食業務、送迎業務の委託、情報機器等のリース契約の業務を順次行った。

人材育成・職員体制については、退職者が多く発生した年度であった。職員が復職するにあたっては、その訓練中においても主治医と産業医との情報共有・指示のもとで取り組むことが大切であるということを改めて痛感した。

II 障害者センター事業部門

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

令和4年度は、第6期指定管理申請に向け、事業運営における企画提案書及び事業計画書を提出し、令和5年度から5年間の指定管理の指定を受けることが決定した。新型コロナウイルス感染症については、感染状況に応じて感染対策をとり、事業運営を行った。その状況の中、7月末から生活介護事業太陽(以下「太陽」という。)で職員・利用者に陽性者が多数発生し、8月4日より11日の期間で利用自粛のお願いをすることとなった。職員の感染予防対策としては、東京都保健福祉局の制度を活用して週2回の抗原検査を8月から実施し、次年度も継続予定である。2類から5類への変更に向けての感染症対策の緩和については、国・東京都・国分寺市が示す方針に則り、「ハイリスク施設に準じる」慎重な対応を継続する。

2) 利用者支援

利用者の高齢化・重度化への対応や、医療的ケアを必要とされる方の受け入れ体制整備がセンター全体の課題となっており、看護師と支援員との連携強化及び支援員の医療的な知識増進や技術向上を図る取組を行った。また、太陽の職員2名が東京都保健福祉局主催の「介護職員等によるたんの吸引等の実施(特定の者)」基本研修を受講した。その他、外部講師を招いての医務研修を年2回実施した。呼吸器装着者の単独通所に向けて取組として、今年度新たに1名の利用者が開始となった。これにより、現在は2名の利用者が、それぞれ週1回家族の待機場所変更を段階的に実施している。

相談業務の充実としては、地域活動支援センターつばさ(以下「つばさ」という。)の総合的な相談機能を強化し、計画相談と連携しながら多様な相談に対応している。また、地域での活動への参加や外出プログラム等、地域の社会資源の活用に取り組み、地域での暮らしを充実させる支援を実施した。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) 利用者支援の充実 様々なニーズに応える支援の充実を図る

①つばさの相談業務については、世帯で支援が必要な方や、障害サービスを利用するまでに整えが必要な方等の様々なニーズに対して、計画相談と連携しながら総合的な相談機能を強化して対応している。職員体制としては7月に1名退職、休職していた職員1名が2月に退職、年度末で雇用契約満了に伴う退職1名があり、職員の補充と担当の引継ぎ等で万全ではない状態での運営となったが、課長・課長補佐が現場のフォローに入りながら運営を継続した。

②太陽は今後の医療的ケアのニーズに応えられるよう、支援職員が行える医療的ケアのサポートの内容を整理し、看護師との連携体制の整備に取り組み、研修を計画的に実施した。職員体制としては休職者が2名出しており、その内1名については2月より復職支援を開始した。

③自立訓練事業はばたきについては令和5年度からの運営形態の変更が決まったため、オンラインや直接出向いての説明会を行い周知に努めた。なお、8月から職員1名が休職をしているため、課長が現場のフォローに入りながら運営を継続した。

④就労継続支援B型どーむについては、12月12日より感染症対策を取りながらカフェタイム(午後2時～3時)を新たに設けた。また、再利用可能な弁当箱や、紙製ドリンクカップへの切り替え等によるプラスチックごみ削減の取組や、着色料・保存料等の無添加スイーツ販売など、健康や環境に配慮した運営を行っている。

⑤日中一時支援事業えんじゅは、週末の日中利用希望の増加に対応するために7月より多目的室

の利用を開始し、利用時間の増加につながった。児童の利用が増加しているため、児童への支援ができる職員の確保と育成が課題となっている。また、緊急入所保護事業で7月・8月・3月に3名受け入れた。

2) 利用者の獲得と利用率の向上

特別支援学校高等部からの実習生について、太陽4名(3年生1名、2年生3名)、ビーむ4名(3年生1名、2年生3名)を受け入れ、その内1名が令和5年度太陽の契約につながった。それ以外の利用希望者についても、見学や実習を随時受入れ、ご本人のニーズ把握に努め、利用調整を図っている。また、利用率向上への取組として、休みがちな利用者については必要に応じて面談や訪問を行い、体調把握や生活相談等を継続している。その他、通所日の変更を希望している利用者については、体調等も鑑みながら、安心して通所できる環境を整えて、ご本人の希望にできるだけ応えられるように支援している。はばたきについては令和5年度からの運営形態の変更についてパンフレットの刷新、関係機関へのオンライン説明会、障害福祉課担当職員への説明等を行い、周知に取り組んだ。

3) 日中一時支援の運営の多角化

日中一時支援の問い合わせが児童を中心に増えており、利用希望が集中しがちな週末や長期休み期間について、2階多目的室の利用を開始した。ショートステイの居室とは環境が大きく違うため、利用を繰り返しながら適正な運用方法に取り組んでいる。児童の利用については、事前の家族・相談支援専門員からの聞き取りや、初回利用時のアセスメントを丁寧に行い、特性やニーズに合わせて、本人に負担がかからないように段階的な利用できるよう取り組んでいる。また、児童の特性を理解して支援を行える職員の確保や育成が今後の課題となっている。

4) 地域生活支援の充実

つばさでは引き続き、「いきいきセンター」や「ひかりプラザ体育館」等の外部施設利用、外出プログラム、ボッチャ大会参加等の活動を行い、市民との交流、活動の場を地域に広げる支援を行っている。参加にあたり、登録をしていなくても参加できるプログラムを設定して体験利用の機会を設け、市全体で取り組んでいる地域生活支援拠点における「体験の機会・場」の充実の一つとして位置付けている。また、普及啓発活動としては、一緒に体験する機会をつくり障害理解が深まるような取組や、当事者の声を聴く場を設けて、支援者と当事者がともに学んで連携・協働できる支援ネットワークの場づくりに取り組んでいる。

3. 人材育成

法人全体の新任研修については、入職時期や部署に関わらず同じ内容で受講できるよう、対面での研修、事業説明の動画視聴、障害理解や支援の基礎知識についてe-ラーニングの活用等、各課で計画的に実施できる体制を整えた。また、業務上必須の資格取得については法人全体で計画的に取り組んでおり、相談支援従事者初任者研修を2名受講した。その他にもサービス管理責任者や介護職員等によるたんの吸引等の実施(特定の者)等、必要に応じた研修への参加を実施した。

1 地域活動支援センターつばさ

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

サロン事業については、交流サロンの人数制限や時間制限、飲食を伴う活動の制限継続等、感染防止対策を実施しつつ、可能な範囲での活動を継続した。そのような中でも、季節ごとの創作活動やウォーキング、防災に関する学習、利用者の声を活動に取り入れグループ活動を通して一人ひとりの力を発揮できる機会をつくることに取り組んだ。一方で、歌や調理等コロナ禍において、継続して実施が難しい活動もあった。また、新たな取組として登録をしていなくても参加できるプログラムの枠組を増やし、登録につながる前の体験の機会の幅を広げ、つながりのきっかけづくりの形を探っている。その他、地域に出向き、地域の中で市民と一緒に活動を行う形は定着してきており、ボランティアの数も少しずつ増えて、活動に広がりが見られている。

令和5年度より、地域活動支援センターに重層的支援体制整備事業の役割が求められる。そのことを見据え、普及啓発事業も含め、地域とのつながりを意識した取組を実施した。これらの取組を今後も継続し、更に世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な地域活動が生まれやすい環境整備につなげていきたい。

2) 利用者支援

相談支援では、一般相談と計画相談とが連携し合って支援する形を整えてきた。数年単位で相談支援を続けてきた一般相談のケースが計画相談につながった件数も多く、次のステップにつながるまでの継続的な相談支援の重要性も実感できた。一般相談では、8050世帯も含め世帯全体に支援が必要なケースや、地域や社会とのつながりを求める相談が増えてきている。必要に応じて計画相談との連携や他の関係機関との連携も視野に入れ、地域での生活を支える視点でつながりを拡げていけるよう相談支援を継続している。

3) OJTの実施

課長面談を実施したほか、必要に応じて個別に面談を実施し、業務や利用者支援に対する姿勢や対応等を自ら振り返り考えることができる機会を設定した。新規採用職員2名については、つばさ全体に関する業務内容や利用者支援に関する説明を行いながら、日常的な業務の振り返りを行った。専門員会議、地活会議においては、主に利用者支援における意見交換を通じてピアグループスーパービジョンを行った。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) 計画相談……本人の持つ力を活かし、その人らしい生き方の実現を支える

個別事業名	到達状況	課題
専門員の質の向上	専門員会議にて各専門員が得た最新の制度の知識やサービスの情報共有を図った。情報は毎月更新している。また、事例検討では野中式事例検討を取り入れ、専門員全体で客観的にケースの再アセスメントを行いながら支援の振り返り及び支援の方向性の再設定等、検討を行うことが定着した。事例検討からみえる地域課題の抽出も行った。	専門員全体で最新の情報共有ができるよう取り組みを継続する。 事例検討は定着してきたため、専門員のみではなく、つばさ全体での事例検討にもつなげていく。

業務効率の向上	最新の情報確認が効率よく行えるよう、事業所情報のファイリング方法を整理した。タイムリーに情報が得られるようにシステムとして整えた効果は高い。また、計画相談にかかわるデータ保存方法を統一し、必要なデータ確認が滞りなく行えるよう整えた。	更新した情報を効率良く検索ができるよう、環境の整えを継続する。事務作業の効率化をはかるうえでは皆が共通して実施できる方法を検討し、共有していく。
チーム支援体制	一般相談から計画相談につながるケース、計画相談から一般相談につながるケースは増えている。一般相談と計画相談の流動的連携の形ができ始めている。	それぞれのケースの実情に合わせて、一般相談と計画相談で連携したアプローチを構築していく。

2) プログラム・グループの力を活用し、自己表現や他者受容の場を経験して、
生きる力を高める

個別事業名	到達状況	課題
サロン事業・夕日かがやき事業	登録更新面談にてつばさ利用の希望や目的を本人から聴き取り、双方で確認することが定着した。アセスメントを定期的に重ねていく方向性ができた。 センター内での活動にとどまらず、地域に出向いて活動する形を拓げるなかで、地域のポッチャ大会への参加が定着し、利用者も市民の一人として地域と一緒に活動する取組が継続できている。	更新面談にてつばさの利用に関するアセスメントを重ねていく取組を継続する。 登録していない人も体験的に参加できる活動について、有効に活用していただけるように、周知方法や利用の受け入れ方法も含めて検討を継続する。
障害者ピアサポート事業	利用者の声を活かした活動としてハンドクラフトクラブの活動が始まった。つばさへの登録がなくても参加できる活動のひとつになっている。また、防災安全課の方にきていただいた防災に関する勉強会では、利用者自身が生活に活かすことのできるプログラムとなった。活動を通して、利用者同士が支えあい学び合う活動を継続していく。	コロナ禍においては、皆で集まって話し合う機会が制限されることが多かった。感染防止対策緩和の流れに沿い、皆で集まって活動する機会や勉強会等の機会を設定し、活動を通して利用者同士が支え合う体験を推進する。

3) 一般相談……住み慣れた地域での暮らしを維持するために、様々な社会資源などつながり、
地域の力を活用する

個別事業名	到達状況	課題
一般相談・指定一般相談	初回面談は多角的な視点でアセスメント行えるよう、複数の相談員で対応し、主任、課長補佐、課長が参加する会議で課題の整理を行いながら必要に応じて複数担当や計画相談との連携を行った。 地域定着支援は対象ケースの設定ができ	複数の相談員の視点でのアセスメントを継続し、必要に応じて複数担当や計画相談との連携を行う。 地域定着支援の対象ケースについて、

	ず、支援の体制は整っているが、支援開始はできなかった。地域移行支援については、精神保健福祉部会と連携した支援体制づくりが進んでいる。	市との相談を継続する。 地域移行支援、地域定着支援ともに、精神保健福祉部会と連携し、つばさにおける支援実施につなげていく。
関係機関との連携（高次脳機能障害促進事業・発達障害者理解促進事業）	コロナ禍により参加者による対面での意見交換の機会の設定が難しく、講演会形式での実施が中心となったが、可能な限り対面での会場参加や対談形式での講演会開催も行う等、感染状況により少しずつ参加の機会と内容の幅を広げた。 家族会も含め講演会では当事者が登壇し、当事者の話から学ぶ機会を設定し、連絡会や情報交換会を通して、当事者との協働の機会を構築する準備ができた年となった。当事者とともに、当事者の視点から支援を考える機会を通して、本人中心の支援ネットワークの構築をはかっていく。	感染防止対策緩和の流れに沿い、意見交換できる場を再設定していく。 当事者とともに、当事者の視点から支援を考える機会を通して、本人中心の支援ネットワークの構築をはかれるよう引き続き取り組んでいく。
対面朗読派遣事業	新規での利用希望はあるが、利用対象外の場合が多く利用につながらない。土日は利用できないために利用につながらない方もある。ヘルパー支援で代読ができることやスマホ等情報機器の充実も利用者が増えない要因だと思われる。利用者の希望に合わせて事業継続する。	利用者の希望に合わせて事業継続に取り組む。
市民福祉講座	参加型・体験型の市民福祉講座を実施し、市民と一緒に自然な形で学び合うことができたことは大きな成果であった。	市民と一緒に学び合う機会を設定できるよう継続する。市内の各団体とも協力しながら、障害のあるなしにかかわらず、だれもが住みやすい街づくりに向けて、互いの理解と地域とのつながりを深めていく。
当事者活動支援	希望により面談等を実施した。支援してきたグループは自らの活動が継続できている。	サロン事業の活動を通して、利用者同士が互いに支えあう体験を積み重ねることができるよう支援していく

3. 活動実績

1) 相談実績

総数 10,834 件 (総合相談 4,214 件、計画相談 6,620 件)
 平均相談件数 34.3 件 (実働日 316 日)
 新規相談 84 件

① 相談支援の方法

(単位 件)

種別	訪問	来所	同行	電話	メール	CC	関係機関	その他	計
一般 (前年)	48 (85)	323 (457)	55 (55)	3,342 (4,309)	7 (11)	17 (19)	382 (772)	40 (43)	4,214 (5,751)
計画 (前年)	563 (506)	529 (607)	69 (36)	1,876 (2,093)	91 (17)	77 (65)	3,364 (3,117)	51 (80)	6,620 (6,521)
計	611 (591)	852 (1,064)	124 (91)	5,218 (6,402)	98 (28)	94 (84)	3,746 (3,889)	91 (123)	10,834 (12,272)

*CC(ケースカンファレンス)：関係者会議。

※相談件数は、頻繁に相談する利用者の有無によって変動する。

② 相談内容

総合相談

(単位：件) (構成比%)

福祉サービス	558	11.3
障害理解	192	3.9
健康医療	429	8.7
不安解消	2,321	46.8
保育教育	0	0.0
家族・人間関係	606	12.2
家計経済	118	2.4
生活技術	177	3.6
就労	110	2.2
社会参加・余暇活動	210	4.2
権利擁護	15	0.3
その他	223	4.5
地域移行	0	0
合計	4,959	

計画相談

(単位：件) (構成比%)

福祉サービス	5,537	54.1
障害理解	1,864	18.2
健康医療	1,044	10.2
不安解消	447	4.4
保育教育	227	2.2
家族・人間関係	477	4.7
家計経済	115	1.1
生活技術	82	0.8
就労	104	1.0
社会参加・余暇活動	98	1.0
権利擁護	34	0.3
その他	201	2.0
合計	10,230	

※相談内容は、1回の相談の中で複数の内容がある場合は、それぞれの項目に計上。

※相談件数は、頻繁に相談する利用者の有無によって変動する。

③ 計画相談の契約数

契約者数 324人(3月末)

サービス等利用計画作成件数	305 件
モニタリング報告件数	565 件

2) サロン事業

① プログラム別参加者数

プログラム名	令和4年度参加人数	平均参加人数	実施回数
交流サロン	1,284	4.4	291
パソコン広場	56	2.4	23
アートサロン	123	5.6	22
プレイス	93	7.8	12
WRAP	55	5.0	11
たがやし隊	12	1.5	8
ハンドクラフト	26	2.6	10
合計	1,649	—	—

② つばさトーク

開催予定	テーマ	参加者
10月26日	学習会「防災について考えよう」 講師：秋元武志氏（国分寺市 防災安全課 係長）	3名
12月26日	交流サロン大掃除	1名
1月7日	新年書初め	7名

③ いきいきプログラム・スペシャルプログラム

開催日	内容	参加者
5月22日	りらくすヨガ	5名
6月26日	りらくすヨガ	5名
7月24日	りらくすヨガ（講師体調不良のため中止）	
9月25日	楊名時太極拳	5名
10月23日	楊名時太極拳	3名
11月27日	楊名時太極拳	4名

④ スペシャルプログラム

9月24日	ノルディック体操（プレイスと合同）	5名
10月29日	ノルディックウォーキング（プレイスと合同）	7名
11月19日	ノルディックウォーキング（プレイスと合同）	7名
12月22日	冬のアートサロン教室 お正月飾り作り	7名
2月4日	フラダンス	10名
3月4日	フラダンス	10名

⑤ たがやし隊

開催日	内容	参加者
4月7日	花の苗、野菜の種を植える	1名
4月21日	草取り	1名

5月19日	草取り	4名
6月2日	草取り	2名
6月16日	草取り	2名
8月1日	草取り	2名
8月15日	花壇整備	0名
9月5日	草取り	0名
10月3日	収穫作業	0名
11月17日	収穫作業	1名
12月9日	オハナ農園に苗を買いに行く	1名
12月15日	花の苗を植える	2名

⑥ 夕日かがやき事業（週末の余暇活動）

○プレイス

日程	内容	参加者
5月8日	ポッチャ、モルック	10名
6月4日	モルック作り	11名
7月2日	モルック作り	10名
8月6日	ポッチャ交流会（新型コロナ感染拡大のため参加中止）	0名
9月24日	ノルディック体操（いきいきプログラムと合同）	5名
10月29日	ノルディックウォーキング（いきいきプログラムと合同）	7名
11月19日	ノルディックウォーキング（いきいきプログラムと合同）	7名
12月3日	ポッチャ	8名
12月18日	ポッチャ交流会	5名
1月22日	室内ホッケー	8名
2月23日	ポッチャ交流会	6名
2月26日	室内ホッケー	8名
3月26日	室内ホッケー（お花見を予定していたが雨天のため雨プロ）	8名

○WRAP（元気回復行動プラン）グループ

日程	内容	参加者
4月9日	WRAPとは ～元気に役立つ道具箱～	6名
5月14日	希望の感覚ってどんなもの？	4名
6月11日	日常生活管理プラン	5名
7月9日	主体性	6名
8月20日	引き金と対応プラン	5名
9月10日	学ぶこと	6名
10月22日	注意プランと対応プラン	4名
11月26日	私の権利を守ること	4名

12月10日	調子が悪い時のサインと対応プラン	5名
1月14日	調子が悪い時のサインと対応プラン	5名
3月11日	クライシスとクライシス後のプラン	5名

⑦ 高次脳機能障害支援促進事業 プログラム<高次脳機能障害関係機関連絡会>

日程	内容	実績
6月23日	<p>内容： 高次脳機能障害者を支える就労支援</p> <p>講師： 守矢 亜由美 氏 (東京都心身障害者福祉センター 高次脳機能障害者支援担当 課長代理)</p> <p>講師： 蟹江 こうじ 氏 (就労移行支援事業所レジリエンス 管理者)</p>	43名 (会場 10名、オ ンライン33 名)
10月12日	<p>内容： 高次脳機能障害者の心理面と情報処理機能の変化</p> <p>講師： 鈴木 大介 氏 (文筆業)</p> <p>講師： 長谷川 幹 氏 (世田谷公園前クリニック 名誉院長)</p>	65名 (会場7 名、 オンライン 58名)
3月16日	<p>内容： 当事者が語る「高次脳機能障害と私の生活期」</p> <p><第1部> 講師： 鈴木 大介 氏 (文筆業) ゲスト： 長原 陽子 氏 (一般社団法人一粒福社会 看護師 / 職員)</p> <p><第2部> 講師： 長谷川 幹 氏 (世田谷公園前クリニック 名誉院長)</p> <p>ゲスト： 飯田 一昌 氏 (デイオアシスマほろば 利用者)</p>	40名 (会場 11名、 オンライン 29名)

⑧ 対面朗読者派遣事業 登録者数 6名 派遣回数 11回

⑨ 発達障害者理解促進事業 プログラム<発達障害者支援関係機関情報交換会>

日程	内容	実績
8月3日	<p>内容： 支援者間で本人理解を深めるには ～「自立のための課題とバランス」の3本柱～</p> <p>講師： 田中 哲 氏 (こどもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長)</p>	37名 (会場2名、 オンライン35 名)

2月1日	<p>内 容：ライフステージの変化を意識した切れ目ない支援を考える～児童から成人へ～</p> <p>ファシリテーター：田中 哲 氏 (こどもと家族のメンタルクリニックやまねこ院長)</p> <p>パネリスト：佐藤 實 氏(東京都立小児総合医療センター 思春期デイケア 看護師)</p> <p>松崎 貴弘 氏(ハッピーテラス国立駅前教室 管理者 / 公認心理士)</p> <p>小林 亜紀 氏 (国分寺市障害福祉課 係長 / 保健師)</p>	28名 (会場8名、 オンライン20 名)
------	--	--------------------------------

⑩ 市民福祉講座

日程	内容	実績
9月17日	<p>内 容：見えにくいってどういうこと？ ～弱視者の生活と日常の工夫を知る～</p> <p>講 師：白井 タ子 氏 (日本弱視者ネットワーク代表)</p> <p>協 力：塩田 直子氏 (NPO 法人視覚障がい者ネットワークコトリナ)</p>	25名 (会場14 名、 オンライン11 名)
12月10日	<p>内 容：「障害者センターってこんなところ」</p> <p>① 障害者センターの紹介・館内見学ツアー</p> <p>② 活動体験 (高さ160cmの紙コップクリスマスツリー作り)</p> <p>協 力：中村 弘子氏</p>	16名
1月28日	<p>内 容：障害や年齢にかかわらず、誰もが参加できるインクルーシブな場づくりについて～こくぶんじ地域クラブの取り組みから～</p> <p>① 講演 (こくぶんじ地域クラブ、つばさ)</p> <p>② スポーツ体験</p> <p>講 師：岡本 公子氏 (こくぶんじ地域クラブ副代表)</p> <p>協 力：こくぶんじ地域クラブ</p> <p>場 所：国分寺市ひかりスポーツセンター</p>	25名

2 生活介護事業太陽

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

前年度同様に感染症対策を行いながらプログラムや行事を継続・再開した。感染拡大の状況により延期したり参加を見送る方もいたが、概ね実施できた。公共交通機関を利用した外出なども一部実施したが、約3年の自粛生活を経て利用者にも戸惑いが見られた。一日外出や期日前投票など一部再開を見送った活動や太陽全体での交流活動の全面再開に向けた1年となった。また、事業の魅力を発信する方法の見直しについては、新規利用の問い合わせが重度の障害の方が増えていることを考慮し、IC ツールを用いた手段を検討することとした。新たなパンフレットの作成は活動の全面再開を優先したため、次年度取り組むこととした。それまでの間は、現在のものに活動の写真を追加するなど一部修正し、活動イメージが持ちやすくなるよう刷新した。

2)利用者支援

研修については、外部研修も徐々に活用しながら内部研修に力を入れ取り組んだ。講師やスーパーバイザーなど外部の方の協力を積極的に得て、さまざまな知見や気づきを得て共有する時間を部署会議内にて設け、チーム全体の支援力の向上に努めた。特に医療的ケアに関する方への支援については昨年度より継続して同じ講師に協力を仰ぎ研修を行いながら中期計画に沿って医務と連携し、支援員の医療的ケアに対する知識や理解を深めている。

3)OJTの実施

今まで確立していなかった手順を試行的ではあるが系統立てて取り組んだ。課長・主任・現場職員がそれぞれ担当する項目を分け行うことで、手技だけでなく事業の特徴や方針、基礎知識を獲得し、職員一人ひとりが安心して従事できるよう取り組んだ。同時期に複数名の入職者がいる場合、OJTの進捗遅れや座学の時間を十分に確保できないなど課題はまだあるが一定程度効果があがっている。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 医療的ケアのある方の支援の充実	医療的ケアに関する5か年の計画を作成した。痰の吸引研修について、研修後の技術維持についても図れるよう5か年計画に盛り込んでいる。医療的ケアに関する研修について、医務研修と位置づけ、継続的に実施している。	作成した医療的ケアに関する5か年の計画に基づき、医務研修、第三号研修、第三号研修修了者のアフターフォロー計画を進める。 次年度、看護師が1名増員となるため、支援職が実践する医療的ケアの内容について医

<p>2. 社会参加への取組と事業の魅力を発信する取組</p>	<p>呼吸器装着者家族の待機場所変更について、小さなミスやトラブルもあったが、その都度振り返り対策を立て再開する流れもできている。年度当初の進捗予定より遅れてはいるが、徐々に時間を延長している。</p> <p>感染拡大により延期、辞退となることもあったが全体での行事を再開した。特に半日外出などではテーマパーク等にも行き始めており、行動や活動範囲が拡がり、充実したものとなってきている。利用者からの希望も増えており、行事の計画・準備の段階から利用者を行っている。意思の表出の弱い利用者は特に、意思形成支援から行うよう心掛け、回数を重ねている。</p> <p>また、リスク回避のため「やぐら型リフト」を2基導入した。それに伴い広いマットスペースができ、環境が整備された。その中で複数の利用者に同時に関わり、利用者同士の交流もより増えている。</p> <p>事業の魅力を発信する取組としてパンフレット等の見直しを行った。利用を希望する方は重度の障害の方も多く、活動の様子がより分かりやすくなるよう写真をパンフレットに追加し、イメージしやすいものに刷新した。一方で、もう少し視覚的なアプローチができるとよいのでは、との意見もあり、今後も継続して検討する。</p>	<p>務チームと協議し具体的に決定する。また、支援員が医療的ケア実施のための事業者登録についても準備を進める。</p> <p>次年度前半に単独通所の試行を行う予定である。試行前に市と協議する場を設ける。</p> <p>上記の取組から、支援職と看護師の連携を更に高めていく。</p> <p>現在は昼食を含む外出は行っていないが、今後は昼食を含む外出についても検討する。</p> <p>また、本人と家族の希望を明確に分けて考えながらも、家族の思いは家族会などで受け止めて家族との連携を図り、本人の思いの実現を図ってきたい。</p> <p>次年度よりタブレットを導入することとしており、写真や動画で事業紹介をしていく環境は整うため、早めに取り組みたい。</p>
---------------------------------	--	---

3. 利用者の状況等

1) 利用者の状況

① 利用者の推移（令和4年4月1日～3月31日）

新規利用者 3名	新卒者2名、他市より転入者1名
退所利用者 1名	施設入所のため

② 年齢別利用者数（令和5年3月31日現在） 平均年齢37歳5ヶ月（単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
2	12	15	12	4	2	47

③ 利用者の障害支援区分（令和5年3月31日現在） 平均5.4（単位：人）

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	0	6	9	31	47

④ 1日平均利用者数 平均35.1人（単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	36.6	35.5	36.2	37.0	24.6	34.8
(前年)	(36.3)	(35.2)	(36.3)	(36.4)	(33.3)	(31.4)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	36.5	36.9	34.6	35.6	36.3	37.0
(前年)	(36.1)	(36.6)	(36.3)	(35.9)	(31.8)	(31.8)

※7月末頃よりコロナウイルス陽性者が判明し、8月に6日間通所自粛を依頼した。また、再開以降も感染拡大状況から自粛していた利用者もいたため、8月の利用率は低下傾向にある。

⑤ 障害手帳（令和5年3月31日現在） 重複あり（単位：人）

愛の手帳				身体障害手帳						精神保健福祉手帳		
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	4級	5級	6級	1級	2級	3級
8	27	3	1	22	10	1	1	2	2	1	1	1

2) 行事等の実施状況

①行事

4月	入所式（通所事業合同）	1日	利用者全員
	お弁当給食（通所事業合同）	21日	利用者全員
5月	施設交流会	20日	利用者6名・職員3名
	宿泊体験	26日～27日	利用者2名・職員3名
6月	宿泊体験	23日～24日	利用者1名・職員2名
	半日外出	29日	利用者3名・職員2名
7月	半日外出	4日	利用者3名・職員3名
	半日外出	7日	利用者3名・職員3名
	半日外出	8日	利用者4名・職員3名
	半日外出	11日	利用者3名・職員3名

	ミニ縁日（はばたきと合同）	13日	利用者・職員全員
	半日外出	14日	利用者3名・職員2名
	宿泊体験	21日～22日	利用者2名・職員3名
9月	半日外出	2日	利用者1名・職員2名
	半日外出	5日	利用者3名・職員2名
	宿泊体験	8日～9日	利用者2名・職員4名
	半日外出	14日	利用者2名・職員2名
	宿泊体験	15日～16日	利用者3名・職員4名
	半日外出	26日	利用者4名・職員3名
	半日外出	28日	利用者3名・職員3名
	半日外出	30日	利用者3名・職員3名
	10月	半日外出	12日
宿泊体験		13日～14日	利用者2名・職員3名
お弁当給食（通所事業合同）		21日	利用者全員
宿泊体験		27日～28日	利用者2名・職員2名
11月	宿泊体験	10日～11日	利用者2名・職員2名
	宿泊体験	17日～18日	利用者2名・職員2名
	宿泊体験	24日～25日	利用者2名・職員2名
12月	半日外出	1日	利用者4名・職員3名
	創作展示販売	6日～7日	利用者全員
	宿泊体験	15日～16日	利用者2名・職員3名
	ランチdeコース（通所事業合同）	21日	利用者全員
1月	新年を祝う会（はばたきと合同）	19日	利用者全員
2月	半日外出	14日	利用者3名・職員2名
	半日外出	16日	利用者3名・職員2名
	半日外出	21日	利用者3名・職員2名
	半日外出	22日	利用者3名・職員2名
3月	半日外出	7日	利用者3名・職員2名
	半日外出	8日	利用者3名・職員2名
	半日外出	9日	利用者3名・職員2名
	半日外出	13日	利用者4名・職員3名
	半日外出	14日	利用者4名・職員3名
	納め会	15日	利用者全員
	半日外出	16日	利用者4名・職員2名
	半日外出	23日	利用者4名・職員2名
	半日外出	24日	利用者3名・職員3名
	半日外出	27日	利用者4名・職員2名

※利用者全員を対象とした行事については一部ZOOMを活用し密を避けて実施している。

②その他

*東経大コラゴ事業として学生とのクラブ活動・交流を13回実施している。

*本人支給金：4月・7月・10月・1月に支給した。

*実習生受け入れ：小平特別支援学校より2名・武蔵台学園より2名・他区より転入1名
社会福祉士援助実習3名

3 自立訓練事業はばたき

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

①利用者の確保について

令和4年度は、修了者が4名あり若干利用率が減少している。周知活動の一環として取り組んでいるオンライン事業説明会を令和4年3月に実施しており、その内容を分析した結果、活動内容のわかりにくさが課題として挙げられた。課題の解決に向け、中期計画で示している「支援の三本柱」について①生活支援、②就労支援、③社会参加支援とそれぞれ言語化し、支援、活動内容の体系骨子としてまとめることができた。それらを基に新たな自立訓練事業の検討、新しいパンフレットの作成、支援、活動内容の整理、分類することができた。また、オンライン事業説明会后、はばたき専用のメールアドレスを作成した。説明会後も参加者とメールで情報共有や空き状況などを発信している。それにより、事業所から新規利用者の打診を受ける、説明会では把握できなかった事業内容の補足をするなど情報発信の形が見えてきた。安定した利用率の確保を念頭に情報発信の形を整えていきたい。

② 相談支援事業所との連携について

メール、Zoom を活用して居宅介護保険事業所、訪問看護事業所と活発な情報のやり取りができるようになった。それにより、利用者の生活状況や課題の把握、支援の成果や効果をチームとして共有でき、利用者支援についても、各事業所が同じ方向を向き取り組めるようになってきている。また、地域活動支援センターつばさとともに8050支援、引きこもり、母子家庭などの事例に取り組んでおり、福祉サービスにつながりにくいケースに対して、役割を分担し、福祉サービスにつなげていく体制ができつつある。

③事業形態の見直しについて

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などとも話し合いを重ねながら、機能訓練と生活訓練を一体的に運営していく骨格を作り、令和5年4月より新たな自立訓練としてスタートを切ることができた。実践を重ねながら、必要な人に必要なサービスが提供できる事業所を目指したい。

2)利用者支援

令和4年度の修了者は4名であった。その中で、高校卒業後から約20年、自宅で過ごしていた方の生活介護事業への移行や自立を目指して当時利用していた就労支援B型事業所と併用し最低賃金が支払われる地域活動支援センターⅢ型の仕事を開始、長期入院から地域に戻り、支援体制を整え再入院することなく、次の事業所へつながったケース等があった。「初めて給料もらったよ」と修了者より連絡を受けるなど、単に移行するのではなく、人生や生き方について新たな意味や目標を見出す、再獲得する、取り戻す支援が「はばたき」の役割だと改めて実感した。

3)OJT の実施

行動指針の「利用者本位のサービスの実現」の理解促進に重点を置いた OJT の取組について、課長補佐が中心となり支援や活動の目的・理由の説明を重ねた。その結果、支援員が根拠を持ち支援に臨むことが増え、自発的な活動構築・提案等、取組の効果を感じた。一方、支援について深く思い悩み、そのことが負担となってしまった支援員もいた。上記取組を基本方針としながらも、育成を図るときに何をどのように伝え、協働し支えあうか、もう一度チーム内で検討・再構築する必要があると捉えている。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 利用者の確保	令和4年度は2名の新規利用者を受け入れた。しかし、4名の修了者があり生活訓練、機能訓練とも定員を満たすことができなかった。	前年度実施した2回のオンライン事業説明会について分析・改善を図り、令和4年12月に3回目の実施に臨んだ。実施後、新規の利用相談件数はやや増えたものの大きな利用者数増加には繋がらなかった。この結果を踏まえ、以下のように課題があると振り返っている。 ① 活動内容、成果、効果などが外部の人にわかりにくい。 ② 説明会開催後の後追い（フォローアップ）ができていなかった。 ③ 情報発信、受信の形を整える必要がある。
2. 相談支援事業所との連携	メール、Zoom を活用して居宅介護保険事業所、訪問看護事業所と活発な情報のやり取りができるようになった。それにより、利用者の生活状況や課題の把握、支援の成果や効果をチームとして共有でき、利用者支援についても、それぞれが同じ方向を向き取り組めるようになったと捉えている。	自立訓練事業の特性上、相談支援事業所、居宅介護保険事業所などとの連携は必要不可欠である。これまでも、それぞれの担当者同士で密に連携、情報共有をして支援に取り組んでいる。今後は以下が課題であると捉えている。 ① 個の対応からチームの対応へ。それぞれの事例に対して対応の基本となる体系・支援の流れを構築する。例：ひきこもりの支援の形、8050 支援の形等。 ② ネットワーク体制を構築する。空き状況、見学、体験などの情報を発信する。相談支援事業所からの問い合

3. 事業形態の見直し	機能訓練と生活訓練を一体的に運営する骨格を作り、令和5年4月より新たな自立事業としてスタートできるよう取り組んだ。	<p>わせなどがスムーズにできるようネットワーク体制を構築する。</p> <p>今後は以下が課題と捉えている。</p> <p>① プログラム、活動内容の整理と組み立て。</p> <p>実践のなかで一週間のプログラム、活動内容を整理、検証していく。担当支援者が異動などで変更になったとしても継続したプログラム、活動を提供できるようにする。</p>
-------------	---	--

3. 利用者の状況

8050 支援事例が母子世帯と父子世帯で2件あり、両者とも親が高齢である。親亡き後の生活は大きな課題であり、それぞれのケアマネジャーと権利擁護の利用、包括支援センターを交えての関係者会議開催などを提案、万が一を想定し少しずつ準備を進めている。はばたきの利用と並行して週1日から一般就労を始めた方も約1年の間に週3日まで増やすことができ、仕事をしていることで自己肯定感の高まりがみられ、安定した収入を得られるようになり、人生で初めてスマホを購入するなど、生活の質が向上している。また、入院以外で初めて親もとを離れ、短期入所を利用した方は「できるかどうか不安だったが、泊まることができて良かった」と自信をつけ、自立に向け短期入所の利用を継続していくことになった。概ね、現在利用中の利用者は、それぞれの目標に向かい確実に前進できている。この成果は相談支援専門員、ケアマネジャー、訪問看護など利用者を中心として、チームとして連携、協力、共同ができてきている結果だと考えている。

① 利用者の推移（令和4年4月1日～3月31日）

新規利用者	生活訓練：0人	
	機能訓練：1人	生活訓練利用から機能訓練の併用
退所者	生活訓練：3人	修了者1人（B型、地域活動支援センター、生活介護）
	機能訓練：0人	

② 年齢別利用者数（令和5年3月31日現在）

生活訓練 平均年齢 47歳5ヶ月

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0人	1人	0人	0人	2人	1人	4人

機能訓練 平均年齢 55歳6か月

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0人	0人	0人	0人	2人	1人	3人

③ 障害別利用者数（重複あり）（令和5年3月31日現在）

生活訓練

精神障害	発達障害	知的障害	てんかん	高次脳機能障害	身体障害
2人	2人	0人	0人	1人	2人

機能訓練

精神障害	脳血管障害	頭部外傷	進行性難病	脊椎損傷	言語障害	肢体不自由	てんかん	高次脳機能障害
2人	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人

④ 1日平均利用者数

生活訓練＜開所日：月・水・金曜日＞ 平均 3.6人 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	4.6	4.2	3.7	4.6	3.9	4.2
(前年)	(5.4)	(4.5)	(5.5)	(4.4)	(4.2)	(4.3)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	4.6	3.8	3.0	3.0	2.1	2.0
(前年)	(5.4)	(4.5)	(5.5)	(4.4)	(4.2)	(4.3)

機能訓練＜開所日：火・木曜日＞ 平均 2.1人 (単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	2.5	3.0	3.0	3.0	2.8	1.6
(前年)	(3.0)	(3.0)	(3.2)	(3.3)	(3.5)	(3.0)
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	1.5	1.8	1.6	1.9	1.3	1.3
(前年)	(3.0)	(3.0)	(3.2)	(3.3)	(3.5)	(3.0)

⑤ 施設及び病院等訪問

施設及び病院等訪問	訪問先	訪問日時
	はらからの家（ピア国分寺）	4月8日（金）見学
	リカバリーセンター転	4月15日（金）見学
	長谷川病院	4月18日（月）関係者会議
	リカバリーセンター転	5月2日（月）体験同行 5月13日（金）実習同行 5月20日（金）関係者会議
	武蔵国分寺公園ストレッチ教室	5月9日（月）参加
	はらからの家（ピア国分寺）	5月11日（水）就労同行 5月18日（水）就労同行 5月25日（水）就労同行
	小金井公園	6月3日（金）一日外出
	ちえホーム	6月15日（水）見学
	まほろば	6月20日（月）見学

	はらからの家（ピア国分寺）	6月22日（水）就労関係者会議
	国分寺市清掃センター	6月28日（水）就労体験
	ジブリ美術館	6月30日（木）一日外出
	自立訓練事業カイエン	7月6日（水）見学
	小金井障害者センター	7月7日（木）交流会
	喫茶ほんだ	8月26日（金）見学

4 就労継続支援事業B型 どーむ

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

令和4年度も新型コロナウイルス感染症により、引き続き事業形態を変更し取り組んだ一年であった。各部門の年度末の収支差額は、喫茶部門はマイナス、スイーツ、清掃部門はプラスとなった。スイーツ部門については、コロナ禍ではあったが、イベントが行われるようになり、大口の注文があったことによる結果となった。全体をとおして、清掃部門の収入が喫茶部門のマイナスの補填をしている結果であった。また、清掃部門では、安定した収入を得ることはできるが、従事する利用者が少ないことが課題として挙げられる。引き続き、利用者の作業意欲向上を図れるよう、利用者会議や利用者研修を定期的に行い、利用者が活動運営に関わる機会を設け取り組んでいきたい。併せて、部門によって収支のバランスが異なること、従事する利用者が不足している部門があること、これらのことは中期計画にも掲げていることであり、課題解決に向け計画的に検討していきたい。

2)利用者支援

定員10名に対し、契約者数は18名だが、不調の訴えや欠席が続く利用者が数名発生した。他部署や他機関との連携が必要な方もおり、生活支援の割合が引き続き高まっている。安定した就労を行うには、生活を整えることも必要であり、事業全体でアセスメント力を向上することが不可欠であると痛感した。今後も他部署、他機関との連携を図り、利用者の「働く」を支えていきたい。

3)OJTの実施

部署の会議内で活発に意見交換が行われ、事業としてのチームが構築されてきた。今後は、更に日々の支援の中で計画に沿った支援が実施できているか、職員一人ひとりが個別支援計画に基づく支援を意識的にできるよう、OJTに取り組んでいきたい。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 喫茶部門	12月12日からカフェタイムを開始し、弁当販売以外の売り上げを目指し取り組んだ。結果、少しずつではあるが、売り上げ増に繋がっている。弁当販売については、昨今の社会情勢により12月に値上げをしたが、日によって変動はあるものの20食程度の売り上げを維持している。	カフェタイムの時間(14時~15時)を延長することを目指す。また、ランチタイムのイートインについても次年度検討する。これらの取組をとおして収入アップに繋げる。

2. スイーツ部門	<p>東経大のデモ販売や生協の常設販売を定期的に行った。また、販路の拡大に関しては、12月3～4日にお仕事ネットワークのイベントとして、初めて西国分寺 nonowa の駅構内での販売会を行った。土日の2日間で用意した菓子は全て完売した。普段喫茶いずみ、スイーツいずみが閉まっていた購入できなかった方や、購入した方が喫茶いずみに買いに来られる方もおり、製品の周知やその後の集客に繋がった。</p>	<p>お仕事ネットワークをとおしでの販売のみならず、今後は、「どーむ」としてイベント参加、販売を実施できるよう情報収集等に取り組みたい。</p>
3. 清掃部門	<p>清掃部門として現在行っている作業は、市役所清掃と公園のトイレ清掃である。それぞれ土日の業務であること、雨天時も休めない作業であること、年末年始も作業を行うことが求められていることから、作業の内容を考慮し「清掃手当」を設定することを協議した。</p>	<p>清掃部門に2月より市役所清掃に1名加わった。引き続き利用者が増えるよう、随時見学や実習を受け入れていく。また、清掃用具の見直しを行い、利用者の方が清掃作業をしやすくなるよう、利用者と一緒に検討し業務の効率化を図っていきたい。</p>
4. 共同受注	<p>イートインの開始等、イベント等参加機会の増もあり、お仕事ネットワークからの共同受注は控えた。受注は控えたが、国分寺市内事業所との繋がりや、情報共有が可能となる活動であることから、今後も参加していきたい。</p>	
5. 利用者の工賃見直し	<p>清掃手当を7月より、新たに1回につき100円支給することとした。従事する利用者の増員にはつながってはいないが、これまで従事されていた利用者が通所日を増やされた。手当の効果が若干あったと捉えている。</p>	<p>収支のバランスが作業部門毎に異なることから、工賃見直しの段階まではいたっていない。 次年度は、カフェタイムの時間を延長することランチタイムのイートインを行うことを計画しており、増収を図るよう努めたい。</p>

6. 事業内容・運営方法の見直し	各事業の整理を行うまでには至っていない。	業務課題の整理を行い、効率的な運営を行い、経営の安定化を図ることを検討していく。
------------------	----------------------	--

3. 利用者状況等

1) 利用者の状況

① 年齢別利用者数（令和5年3月31日現在） 平均年齢44.1歳 （単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
1	2	2	6	7	0	18

② 1日平均利用者数 （単位：人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用数	7.5	7.3	7.3	7.0	5.8	6.4
前年度	8.4	8.0	8.4	7.7	8.0	7.9
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	6.8	7.0	6.4	6.9	6.7	7.2
前年度	7.8	8.0	7.3	7.2	7.2	6.8

③ 利用者の障害の状況（重複障害あり） （単位：人）

精神障害	てんかん	知的障害	発達障害	肢体不自由	聴覚障害	高次脳機能障害
11	3	7	2	1	2	1

④ 障害支援区分 （単位：人）

区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4
7	1	3	6	1

⑤ 活動内容

【活動種別】

種別	活動内容
喫茶いずみ	調理・弁当の提供・店内清掃
スイーツいずみ	製造・店頭販売・地域イベントに出店
清掃	市役所（第2庁舎）の清掃業務・公園トイレ清掃
その他	お仕事ネットでの共同受注作業・ポスティング

【週間活動スケジュール】

月	火	水	木	金	土	日
喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ	清掃	イベント 時販売
喫茶 スイーツ ポスティング (不定期)	喫茶 清掃	喫茶 スイーツ	喫茶 スイーツ ポスティング (不定期) 清掃(不定期)	喫茶 スイーツ ポスティング (不定期)		

※清掃場所＝市役所第2庁舎

※喫茶営業：月～金曜日 11：30～15：00

土曜日：市役所清掃、公園トイレ清掃、制服洗濯等

⑥ 行事等

実施日	行事名	場所	実施人数
6月16日	東経大デモ販売	東京経済 大学	利用者1名 職員2名
7月1日～ 3日	夏のスイーツ&ハンドメイドフェア (お仕事ネットワーク販売会)	ミーツ 国分寺	職員2名(各日)
10月8日	どーむ余暇活動 (ポッチャ大会・ビンゴ大会)	障害者センター 多目的室	利用者9名 職員3名
11月2日	東経大デモ販売	東京経済 大学	利用者2名 職員1名
12月3,4日	冬のスイーツ&ハンドメイドフェア (お仕事ネットワーク販売会)	nonowa 西国分寺	利用者2名 職員2名(各日)
3月4日	利用者研修 (マナー研修/ビンゴ大会)	障害者センター 活動室	利用者14名 職員3名
3月23日	家族会	障害者センター 多目的室	利用者家族7名 職員2名

⑦ その他

利用者自治会・お仕事ネットワーク毎月実施

東経大コラボ会議：4月25日、5月30日、7月4日、10月17日、11月21日、
1月30日 zoomで実施

東京経済大学構内、生協常設販売：5月25日、10月13日、11月2日、12月13日納品

5 短期入所・日中一時支援 えんじゅ

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

日中一時支援事業の受け入れ枠の工夫を本年度のえんじゅの活動の柱とし、常に意識して取り組んだ。新しいチャレンジを行うことにより、えんじゅの事業についての理解促進や他事業と連携して利用者の支援に取り組むことの強化につながった。また、令和4年度は緊急入所保護事業として、3件の受け入れを行った。

2)利用者支援

医療的ケア者（児）や重症心身障害者（児）の利用については、特定の介護人が対応するケースが続いている。また、食事介助や身体介助等、普段関わっていない介護人での対応が難しい利用者もあり、日中通所先で対応している職員が、介護人への引継ぎを兼ねて宿泊するケースもあった。家族の高齢化、利用者の身体機能の低下に伴う医療的ケアの増加等、えんじゅで受入れ支援する必要性とスキルがより一層、求められていることを痛感した

3)OJTの実施

介護人会議を実施し、虐待防止研修・身体拘束に関する研修・児童への関りの基礎的な理解など、Eラーニングを活用して取り組んだ。また、コーディネーターが支援の現場に入り、個々のご利用者の特性や配慮する点等について直接伝えた。これらのことをとおして介護人の安心感を高め、新たな利用者の支援に挑戦する介護人が少しずつ増えている。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1.受け入れ枠の工夫	<p>日中一時支援事業に関して、開館日の土日に多目的室を活用した取組を定期的に行った。結果、受け入れ人数と時間数が増えた。</p> <p>短期入所事業に関しては、1名での利用を継続したことや、コロナ関連でのキャンセルが年間29件発生し、利用率に大きな影響があった。</p>	<p>受け入れ人数が増え、その中でも、児童の申込みが増えた。成人と児童への関わり方が異なることから、戸惑うこともあった。今後は、児童の特性を理解したサービスを提供できるよう、ヘルパーとともに学びを深めていきたい。</p> <p>平日の利用希望のニーズが多い状況があり、次年度は少しずつ2名利用の受け入れを行い、ニーズに応えていきたい。2名で受け入れる日数を設けることで連泊のご希望等に</p>

2. 入浴希望への取組	<p>車いすを利用されている方の入浴は、二人介助が必要となるため、実施方法の検討を行った。障害者センター館内の機械浴の活用を検討したが、不慣れな介護人では支援が難しいことが課題として挙げられた。介護人への機械浴室を活用しての入浴支援のレクチャーを検討したが、月1回の利用では、経験が積み上がらないことが想定され、結果、リスク管理の観点から難しいと判断せざるを得なかった。また、介護人が不足している中で、職員が宿泊などの対応に従事する場面も増えており、人的に配置も難しいこと、契約時に丁寧に利用者や家族にえんじゅの居室内での入浴が難しいことを説明し、理解を得るよう取り組んでいる。</p>	<p>こたえ、バリエーションをもった体制が可能となる。</p> <p>入浴提供に関しては、ご利用者ご家族に丁寧に説明を行い、引き続き安全安心なサービスの提供に努めていきたい。</p>
3. 医ケア者（児）への充実した対応	<p>日々の体調変化、食形態や服薬の変更等、利用される際の支援内容の変更、対応に苦慮している現状があった。利用されている方は、障害者センターの方が多く、利用者の中には、普段接していない介護人の介助で食事を摂ることが難しい方もおり、通所事業職員との連携、情報共有に今後も取り組み、少しでも柔軟に対応できるよう努めたい。</p>	<p>細かな状況が記載されているマニュアル作成も必要だが、普段接している職員や看護師の対応を見て学ぶ機会を設け、利用者を支援できる環境を整えていくことが必要である。通所事業太陽の利用者の場合、太陽利用時の昼食時に現場で実習することや、普段接している太陽の職員に、えんじゅ利用時の食事介助にを一緒に行い支援方法を学ぶ等も検討していく。</p> <p>医療的ケア者（児）を受入れる際の要件に関しては、市とも再度確認し、取り組む。</p>
4. 安全を確保した受け	<p>今年度、緊急入所保護事業として、3件の受け入れを行った。そ</p>	<p>今後も緊急入所により、初めて利用するケースについては、職員が</p>

<p>入れと環境整備について</p>	<p>の中で初めて利用した2件に関しては、利用初日は職員が宿泊し支援を行った。その2件の内1件は、事前情報が乏しい中での支援開始となった。利用者との関係性作りを丁寧に行い、アセスメントを行うことで、利用者本人から様々な情報を得ることができた。結果、その後の支援体制、必要なサービスへと繋ぐことができた。</p>	<p>初日対応し、必要なアセスメントを行う事を継続する。初日以降も必要に応じて職員や介護人の配置を2名にするなど、安全に配慮した運営を行う。</p>
<p>5. 介護人について</p>	<p>介護人不足と介護人の高齢化の課題に対して、今年度はインターネットを活用した募集に取り組んだ。数名の応募があり採用に繋がっている。</p>	<p>仕様書において、緊急入所保護事業は7日間を原則としているため、次のサービスに繋がった際、必要な情報を提供できるよう短期入所事業えんじゅとしての役割を担っていききたい。また、その間、国分寺市担当所管と情報共有をしながら進めていきたい。</p>
		<p>法人内他事業とも連携し、一体的な採用募集や人員の内部配置を行えるよう、新たな仕組みを次年度は模索したい。また、不足している男性介護人に関しては、他市の短期入所の介護人の確保について調査し、様々な方法で人員確保を目指したい。</p>

3. 利用者の状況

新型コロナウイルス感染症による影響を引き続き受けた一年であった。そのような状況ではあるが、日中一時支援事業については、感染症発生以前の状況に戻りつつある。上半期に比べ、児童の利用者数が増えており、成人と児童の支援方法は異なることから、これまで成人の方への支援を多く実施してきたヘルパーがほとんどであり、児童への支援を改めて学ぶことが必要と思われる。

1) 活動実績

① 短期入所事業

(単位 日)

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	昨年度
4月	25	0	19	2	0	46	49
5月	25	2	18	2	0	47	55
6月	33	2	15	0	0	50	60
7月	31	3	18	0	0	52	77
8月	27	2	10	0	0	39	48
9月	36	0	18	0	0	54	46
10月	36	0	14	0	0	50	52
11月	27	0	14	0	0	41	58
12月	36	0	16	0	0	52	58
1月	31	0	18	0	0	49	43
2月	31	0	12	0	0	43	35
3月	32	0	14	2	0	48	51
合計	370	9	186	6	0	571	632

※キャンセルがなく、予定通りのご利用であれば月 52.4 日と目標に近い数字で推移していた。令和3年度と比較してキャンセルの件数が増えている。

② 日中一時支援事業

(単位 時間)

	知的	児童	身体	精神	難病	合計	昨年度
4月	34	48	72	0	0	154	93
5月	40	51	59	0	0	150	126
6月	34	38	35	0	0	107	85
7月	34	69	68	0	0	171	174
8月	49	135	44	0	0	228	158
9月	39	71	47	0	0	157	141
10月	42	73	39	0	0	154	110
11月	26	62	40	0	0	128	131
12月	14	125	56	0	0	195	189
1月	13	93	58	0	0	164	121
2月	7	73	52	0	0	132	126
3月	27	140	46	13	0	226	243
合計	359	978	616	13	0	1966	1692

※多目的室の利用で受入れ人数と時間が増えた。また児童の利用者数が増加傾向である。

③ 緊急入所保護事業

	件数	日数	昨年度件数	昨年度日数
4月	0	0	0	0
5月	0	0	1	4
6月	0	0	0	0
7月	1	3	1	2
8月	1	2	0	0
9月	0	0	0	0
10月	0	0	0	0
11月	0	0	0	0
12月	0	0	1	0
1月	0	0	1	0
2月	0	0	0	0
3月	1	3	0	0
合計	3	8	4	6

※8月に緊急入所にて受け入れた案件は、ご家族が新型コロナウイルス感染症に罹患し、緊急の案件として、国分寺市担当所管と協議し「緊急入所保護事業・日中一時支援事業」として受け入れを行った。

④ 医療的ケアのある方の日中一時支援事業利用

	令和4年度			令和3年度		
	人数	日数	時間数	人数	日数	時間数
4月	0	0	0	1	1	7
5月	1	1	5	1	1	5
6月	1	1	4	0	0	0
7月	1	1	7	0	0	0
8月	2	2	10	2	2	10
9月	0	0	0	0	0	0
10月	1	1	5	0	0	0
11月	1	1	5	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	1	1	4
2月	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0
合計	7	7	36	5	5	26

※定期的に利用されている方1名有。

⑤ 医療的ケアのある方の短期入所事業利用状況（定期的な利用申込有）

	令和4年度		令和3年度	
	人数	日数	人数	日数
4月	2	4	2	4
5月	1	2	2	4
6月	2	4	2	4
7月	1	2	1	2
8月	1	2	1	2
9月	1	2	2	4
10月	1	2	2	4
11月	2	4	2	4
12月	1	2	1	2
1月	2	4	2	4
2月	1	2	1	2
3月	1	2	1	2
合計	16	32	19	38

⑥ キャンセル状況

	短期入所事業		日中一時支援事業	
	人数	日数	人数	時間
4月	1	2	3	12
5月	2	4	3	16
6月	0	0	1	2
7月	5	10	4	20
8月	7	14	3	18
9月	3	6	3	10
10月	1	2	5	14
11月	2	4	4	18
12月	3	6	2	9
1月	1	2	3	13
2月	2	4	3	12
3月	2	4	4	24
合計	29	58	38	168

※通所事業の利用自粛に連動し、短期入所事業利用キャンセルが増える傾向にあった。
 日中一時支援事業については、一次予約確定後のキャンセルが月平均3.1件、14時間発生した。児童のご利用でご家族の都合によるキャンセルの理由が多くあった。キャンセルが発生したことにより、介護人への休業補償も連動して発生した。

6 保健衛生事業

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

- ① 人工呼吸器装着者への合理的配慮や、同伴している家族の負担軽減のため、単独通所を目標とし、継続して段階的な計画の進捗を図った。また、医療的ケア児(者)の新規入所や、利用者の重度化・高齢化により、医療的ケアが必要な利用者は増加傾向である。そのため、看護師だけではなく、支援員も呼吸器装着者を始めとする医療的ケア児(者)に対する理解増進や医療的知識や技術のスキルアップを図り、支援員と看護師が医療面や、健康面に関する知識や技術を計画的に習得し、互いに連携し、安心安全な支援が行えるよう取り組んだ。
- ② 令和4年度も法人が運営している事業で、新型コロナウイルス感染症が発生したが、必要な対策をとり、感染症が拡大しないよう努めた。令和3,4年度の経験から、対応策をとるにあたって、産業医との連携は必要であることを認識した。今後も連携を意識し取り組んでいく。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業	到達状況	課題
医療的ケアの必要な方の支援の充実	<p>① 日中一時支援・短期入所事業では、必要に応じてマニュアルの見直しを行った。また、医療的ケアの方が利用される際は、安定した利用が可能となるよう看護師が従事する時間を設け、医療の視点からの把握にも努めた。</p> <p>②呼吸器装着者の単独通所を目指し、国分寺市、ご家族と話し合い作成した計画に基づき進めた。実施する中で、看護師・職員の支援における役割の明確化や支援職員が安心安全に支援できるよう段階的に取り組んだ。その中で、医務研修を定期的に変更し、看護師と支援員が医療的な知識と技術を習得し、看護師と支援員で連携し、互いにスキルアップを図れるよう取り組んだ。</p> <p>③ 支援員のたん吸引等の研修は、東京都で開催する研修を活用し、指定の職員に基本研修の受講を実施し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な利用者の重度化・高齢化や新規利用による増加傾向の中、安定した対応が可能な看護師の体制づくりが必要である。 ・生活介護事業太陽、短期入所事業えんじゅにおいて、医療的ケア児(者)の利用希望が増え、医療的ケアを伴う支援が増えている。安心安全にサービスを提供するためには、更に看護師と支援員の連携の強化が必要である。 ・医療的ケアが必要な方が増加傾向の中、医療的ケアを伴う支援体制の構築と合わせて、たん吸引等の研修を計画的に実施する必要がある。 <p>上記のことを進めるにあたって、看護師の役割分担の明確化と増員が必要である。</p>

	た。また、今後習得した知識や技術を支援で活かせるように、中期計画に連動して作成した「支援員の医療的ケア実施」の取組に向けて準備を行った。	
感染症対策	<p>① 各事業所に、手洗い・嘔吐物処理研修実施を勧奨した。また、一部の事業所（どーむ・ひかり・この葉）で実施し、職員の衛生面のスキルアップを図った。また、感染状況に合わせて、施設の清掃・消毒の実施や、利用者や職員、来館者の検温を継続的に実施した。</p> <p>新型コロナ感染症を含む感染症に関して、情報収集を行い、嘱託医と連携を図りながら必要に応じて情報提供し、感染拡大防止対策に努めた。</p> <p>② 衛生用品の確保・一括管理を行い、必要時に迅速な対応が出来るように努めた。</p>	手洗い・嘔吐物処理研修は、流行の時期に合わせて、法人内全ての事業にて実施できるよう研修内容、実施方法の見直しが必要である。
利用者や職員の健康管理	<p>① 利用者の健康診断受診は、市の保健事業、医師会の健診、主治医など複数の手段を活用し、嘱託医と連携を図り、結果に応じて事後の対応に繋げた。</p> <p>② メンタルヘルスチェックや、健康診断を通して、各職員が、自身で改善・解決できるように心身の健康管理に対するサポートを行った。また、健康診断の結果を嘱託医と共有し、必要に応じて受診や健康相談などの勧奨を行うなどのアフターフォローに努めた。</p>	令和4年度は、精神面での不調により、眠れない等の身体症状が発生し結果、5名の休職者が発生した。年度内にて復職訓練に至った者もいるが、産業医との連携が不可欠であることを改めて認識した。引き続き連携を図り対応していきたい。
看護師の計画的な人材育成	<p>① 法人職員として必要な知識の獲得や情報共有のために、会議や研修への参加が出来る体制を整えた。</p> <p>② 外部講師による医務研修を開催</p>	中期計画に連動しながら、定期

	し、グループワークで指導役を務めるなど、看護師としてのスキルアップを図った。	的に医務研修を実施し、外部研修に参加するなど、計画的に実行できる体制を整える。
--	--	---

3. 事業内容

1) 生活介護事業 太陽

- ①健康診断：毎月第1・第3金曜日 計24回実施
- ②定期健康診断：年1回（嘱託医1回・市の保健事業や医師会健診も活用した）
- ③健康相談：必要時に対応（本人・家族・職員対象に、必要時嘱託医との面談を行い医療機関を紹介した）
- ④歯科健診：年1回（6月17日）
- ⑥ブラッシング指導：月に1回 計12回
- ⑦感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
- ⑧細菌検査年2回（全員異常なし）
- ⑨受診同行5回・家庭訪問1回・学校訪問1回・緊急時対応3回・関係者会議2回
- ⑩医療的ケア対応（人工呼吸器の管理・経管栄養・気管切開部の管理・痰の吸引・導尿・褥瘡処置・発作時座薬挿肛・浣腸）・マニュアルの見直し・主治医との連携
- ⑪毎日の健康チェック、服薬管理、活動への参加、送迎添乗
- ⑫主治医・地域医療機関との連携
- ⑬リハビリ会議・PT/OTとの連携・福祉用具の作成や導入の支援
- ⑮摂食支援：摂食会議・多摩クリニック受診勧奨・往診対応7回

2) 自立訓練事業 はばたき（機能訓練・生活訓練）

- ①必要時バイタル測定・体重測定・外傷処置・栄養相談・健康相談
- ②随時・定期健診の受診勧奨
- ③細菌検査（年2回）利用者全員異常なし
- ④ブラッシング指導

3) 地域活動支援センターつばさ

- ①外傷処置・体調不良者の対応
- ②健康相談・病院紹介・電話相談（随時）

4) 短期入所事業・日中一時支援事業えんじゅ

- ①利用者の把握と体調不良時・急病・外傷などの対応、健康相談
- ②救急セットの管理、衛生管理
- ③痰の吸引・経管栄養など医療的ケアを必要とする利用者の対応

5) 就労継続支援事業B型 どーむ

- ①毎月の細菌検査：（毎月全員異常なし）
- ②毎月の体重測定と健康相談
- ③感染対策：手洗い研修1回
- ④随時：健康相談・栄養相談

6) 生活介護事業この里

- ①健康診断：毎月1回 計12回
- ②定期健康診断：年1回（市の保健事業を活用した）
- ③健康相談：必要時に対応

- ④感染対策：インフルエンザ予防接種勧奨・実施
- ⑤細菌検査年2回（全員異常なし）
- ⑥随時：健康相談・栄養相談・ブラッシング指導
- 7) 共同生活介護事業・ケアホームひかり・ケアホームこの葉
 - ①利用者の健康管理・緊急時の対応・通院同行・入院時の対応・健康相談・感染症対策
 - ②衛生管理・手洗い研修・汚物処理研修・スタッフ会議への出席・家族との連携
- 8) 居宅介護事業ウイング
 - ①利用者・ヘルパーの健康相談，情報提供（感染対策）
- 9) 職員
 - ①健康診断 年1回（深夜業従事者 年2回）
 - ②細菌検査 年2回 対象職員のみ（5月、1月：全員異常なし）
 - ③緊急受診・健康管理と健康相談・メンタルヘルス相談・予防接種の勧奨など
 - ④手洗い研修・汚物処理研修
- 10) 要医療的ケア者の受け入れ状況
 - ①通所：経管栄養（6）たんの吸引（6）吸入（1）呼吸器（3）褥瘡処置（1）
 - （ア）日中一時：経管栄養（4）たんの吸引（1）
 - （イ）短期入所：経管栄養（1）たんの吸引（1）夜間不要
 - ②医療的ケアの実施、実施に向けて主治医との面談・指示書依頼、家庭訪問・研修受講など
- 11) 研修
 - ①医務ミニ研修実施 2回（外部講師による）
 - ②職員全体研修参加（外部講師による）3回：看護師全体
 - ③内部研修参加 看護師全体
 - 医療的ケア指導者研修 1名

Ⅲ KOCO・ジャム事業部門

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

今年度は、各事業において、利用者数及び利用率の向上に取り組んだが、収支の安定までにはいたっていない。生活介護事業この里（以下「この里」という。）においては、例年以上に見学や実習を受け入れたが、利用に繋がったのは1名のみであった。居宅介護事業所ウイング（以下「ウイング」という。）では、居宅や移動支援において、下半期より徐々に支援件数が増加しているが、目標の数字には届かなかった。グループホームでは、ケアホームこの葉（以下「この葉」という。）において11月と3月に利用者の退去があり、新規利用者の利用に向け、調整を行っている。早期に利用者の確保が必要である。一方で、短期入所事業は、コロナ禍の影響もあり、積極的な受け入れはしてこなかったが、下半期より定期で利用を開始した利用者が2名あり、少しずつ利用の枠を広げている。

新型コロナウイルス感染症による影響は引き続きあり、7月末から9月までの間は各事業において感染者が発生した。特にグループホームにおいては、順に感染者が発生する状況に陥り、各ホーム内にて隔離対応を実施した。感染した利用者内1名は、重度化が危惧され入院となった。11月に東京都の「新型コロナ完全防止実地研修」を受講し、法人全体で感染対策を共有した。これにより、12月に再びグループホームで感染者が発生したが、短期間での終息につなげることができた。

グループホームにおける職員配置については、管理職や他事業の職員のサポートを受けて対応をした。年度末で退職者も発生したが、新規採用とともに派遣職員を活用して調整を行った。ウイングのヘルパーについては、年間を通して8名の増員があった。広告媒体の活用や大学等への働きかけ、求人チラシのポスティング等、様々な方法で求人活動を実施した。安定した支援環境の提供のため、グループホーム、ウイングともに引き続き、職員の確保に取り組んでいきたい。

2) 利用者支援

個別の利用者ニーズやそれぞれの課題に対して、各事業にて具体的な対応を協議し、利用者が安心・安全に生活や活動ができるよう支援に取り組んだ。定例の会議をはじめ、職員間で支援について話し合う時間を取り、利用者情報の共有や支援に対する理解を深める機会を持った。グループホームでは、これまでのスタッフ会議に追加して、ユニット毎の会議も設定し、職員一人ひとりが積極的に支援について考え、話し合える環境作りに取り組んだ。また、コロナ禍の影響でホーム内での隔離等の期間が長くなることで、不安定になる利用者もあり、丁寧に気持ちに寄り添う支援を心掛けた。この里では、職員の入替わりが数回あったため、丁寧に引継ぎを行い、支援力の維持に努めた。ウイングでは下半期にヘルパー会議を実施するとともに、ミニ研修を行い、ヘルパー一人ひとりの利用者理解や支援力の底上げに取り組んだ。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

1) 利用者の確保と利用率の向上

ケアホームひかり（以下「ひかり」という。）は、4月に新規利用者を迎え入れ、全てのグループホームが満床となったが、その後、この葉で2名の退去者があり、現在新規利用者の確保に取り組んでいる。また、コロナ感染を危惧して自宅に戻られる方もおり、利用率は伸びなかった。この里では、特別支援学校の生徒や市外からの問い合わせを多く受け、複数の見学や実習の受け入れを実施したため、市外利用者への働きかけは行わなかった。しかし、実際に利用となったのは1名のみであった。その為、次年度は市外への積極的な働きかけを行っていききたい。ウイングでは、相談支援事業所等への働きかけなどの成果が少しずつでており、下半期は居宅や移動支援において利用者数・利用時間ともに増加しつつある。短期入所も下半期より利用を開始した方がおり、少しずつ利用の枠を広げていくよう取り組んでいる。

2) 体験型短期入所事業の確立

下半期より利用を開始した利用者に対して、受け入れ要綱に基づき受け入れ、アセスメントシートを活用して支援を開始した。現状においては、アセスメントシートの内容を反映して、支援につなげていく試行を行っている段階であり、今後のさらなる検討が必要である。また、男性ユニットについては、GH 利用者の特性や現状の生活状況から、短期利用者の受け入れが難しい状況が見えてきた。運営方法や居室の移動等、次年度の課題として検討を実施していく。

3) 共同生活援助事業利用者の変化への取組

利用者の高齢化や重度化などの変化に備えて、またその時々を利用者の状況を把握し、必要な支援や活用できる資源を検討するため、利用者の障害や生活能力等の状態や変化を測ることができるアセスメント様式の作成に取り組んだ。関連資料を基に検討を行い、認知面と身体面について、アセスメントのための様式を作成した。次年度はこの様式によるアセスメントを試行し、さらなるブラッシュアップに取り組んでいく。

4) 支援力の向上

例年同様に各事業の会議にて、「万葉の里で働くあなたへ」についての読み合わせを行い、それを基に日常の支援について振り返りを行った。管理職との定期的な面談や研修等を活用して、職員一人ひとりが利用者の障害特性や支援の目的等を考えられるよう取り組んだ。利用者の状況や支援が停滞しているケースについては、関係機関とも連携し、積極的に外部の意見も取り入れ、支援力の向上に努めた。この里においては、職員の入れ替わりもあり、支援力の向上を目指しつつ、支援力を落とさないよう努めた。

5) 地域との連携

下半期においては、様々な制限の緩和もあり、地域へ出ていく機会を作った。グルー

ブホームでは移動支援等のサービスを活用し個別の外出や、地域活動への参加の機会を少しずつ増やした。この里では施設外就労の実施や、地域での作業活動やポスティングを積極的に行った。部門全体として、地域の方々から様々なご意見をいただくことも増えてきており、その関わりを大切に育み、今後も地域の中の事業所としてしっかりと地に足をつけた運営を行いたい。

3. 人材育成

各事業において、期初と期末の課長面談を実施した。今年度の事業計画や目標管理シートを共有するだけでなく、法人のキャリアパス制度に則り、事業の中での各職員の目標や役割、それぞれの希望や将来像についても、管理職とともに考える機会を設けた。各職員が目標をもって、業務に取り組めるよう配慮した。主任や副主任においては、現場の支援と併せて、事業運営全体についても理解し、考えることができるように管理職からOJTも実施した。各職員については、キャリアパスに応じたOJTを実施しており、外部研修やe-ラーニングも活用した。新人職員には現場でのOJTのみならず、新人研修の一貫で管理職から個別に面談を行った。日常のコミュニケーションを大切に、相互理解や報告・連絡・相談の強化に取り組み、上司に相談がしやすい関係や職員同士が意見を言い合える、風通しの良い職場環境の整備に取り組んだ。

1 生活介護事業この里

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

令和4年度は、新規利用者を1名迎え、登録者数16名で終了した。新規利用者の1名は、見学12件、武蔵台学園の生徒6名を含め11名の実習を受け入れての結果であった。令和5年度は、特別支援学校より、新卒者を1名迎える予定ではあるが、近隣市では需要に対して供給が追いついていないとの情報も得ており、引き続き近隣市からの利用者獲得を目指す。併せて、令和4年度に実習した武蔵台特別神学校の生徒が、卒業後の進路先として選択いただけるよう取り組む。

2) 利用者支援

令和4年度は、年度開始時に新規職員を1名受け入れ、年度途中で2名の職員が退職した。そのため、これまでの支援を振り返り、支援力の向上を図るというよりは、支援力の維持に努めつつ、新入職者、新しい利用者との関わりの中で得た、新たな視点を取り入れながらの一年であった。新年度は、新たな利用者、職員を迎え、併せて、作業内容も新たなことに挑戦する予定である。これまでの支援を土台として、更に発展できるよう取り組む。

3) OJTの実施

年3回の課長面談を予定していたが、コロナ禍の状況により期初と期末の年2回の実施となった。事業計画等を共有し、チームとして取り組んできたが、新規職員の入職、年度途中の退職者の代わりに派遣職員を配置する等、職員の入れ替わりにより、職員が固定しない1年間でもあった。令和5年度はこれらの経験を活かし、チームとしての事業運営が行えるよう整えていきたい。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 利用者の確保	上半期には新規利用希望の方（国分寺市在住及び他市の方）の問い合わせが増え、実習も多数受け入れた。このことから、国分寺市内の需要もあると思われ、市外への積極的な利用者獲得の取組を控えた。しかし、実際に契約に至った方は少なく、新規利用者は1名のみとの結果であった。	利用希望の問い合わせや、実習の受け入れ等増えてはいるが、年度途中の利用希望者は、即利用の希望ではなく、いくつかの事業所を体験されて決める傾向にあり、契約にいたらなかったり、契約まで時間を要するケースが多かった。市内には、新しい生活介護事業所が複数開所していることを踏まえると、市内の需要と供給のバランスは取れつつあると思われる。とはいえ、特別支援学校の新卒者の需要はあると見込み、

2. 作業活動	<p>買い物代行に関しては、チラシを作成していたが、感染症の状況により、適切な開始時期が判断できず、配布開始は見送った。</p> <p>この里の作業室以外で作業する勤務の疑似体験に関しては、6～7月の間、公共交通機関を活用し市ヶ谷まで出勤し、封入・封緘の作業を計9日間行った。</p> <p>販売活動においては、コロナ禍で販売場所の拡大は難しいため、販売品の検討を行い、ミサング製品の種類を増やし販売した。また、他事業所から仕入れたコーヒーの販売も試験的に行った。</p>	<p>今後も在学中の実習を積極的に受け入れ、市内外の新卒者獲得を目指す。</p> <p>新型コロナウイルス5類変更の時期に合わせて配布時期を明確にする。</p> <p>作業受注先との連携を担っていた職員の退職により、下半期未実施。来年度継続できるか交渉しつつ、新しい場所の開拓に向けて取り組む。</p> <p>販売品の選定を引き続き行い、陳列などの販売方法の改善を図る。また、ミサング製品に関しては、利用者の作業の向き不向きも考えながら、現行の作業を見直していく。</p>
3. 余暇活動	<p>ポッチャやフラダンスを日々の余暇活動で練習し、発表することを目標とした。上半期参加予定としていた“センターまつり”は中止となったが、下半期実施された“ハート de フェスタ”に参加し、フラダンスと歌を披露した。</p> <p>また法人の設立20周年企画“ポッチャ大会”にも利用者全員で参加した。</p>	<p>来年度は、コロナ禍の状況が変化し、全体で外出や行事ができるようになることを想定し、年間計画を経て取り組みたい。</p>

3. 利用者の状況等

1) 利用者の状況

年度当初、利用契約者数15名で開始し、11月に1名の受け入れを行い、年度末の契約者数は16名であった。令和5年4月に新卒者1名を迎え、令和5年度は17名での開始予定である。16名の利用者のうち、15名は週5日の利用、1名は体調により、現在休止となっている。

① 利用者の推移（令和5年3月31日現在）

新規利用1名	他法人事業所から1名
--------	------------

② 年齢別利用者数（令和5年3月31日現在） 平均年齢 35.6歳 （単位：人）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	6	5	4	0	1	16

③ 利用者の障害支援区分（令和5年3月31日現在） 平均 4.6 （単位：人）

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	6	9	1	16

④ 1日平均利用者数 平均 13.5 （単位：人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
14.0	13.4	13.4	13.2	10.9	12.7
10月	11月	12月	1月	2月	3月
13.2	13.7	13.7	14.4	14.7	14.5

⑤ 障害手帳（令和5年3月31日現在） （単位：人）

愛の手帳				精神保健福祉手帳			身体障害手帳					
1度	2度	3度	4度	1級	2級	3級	1級	2級	3級	4級	5級	6級
	9	4	1	2	1		2		1			

⑥活動状況

【活動時間】 ※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、時間割を変更。

1日の流れ ※（ ）内は月・金、状況に応じ、グループ別に午前午後に分けて実施。

8:15	送迎開始①	13:00	作業 3コマ（余暇活動）
8:30	職員朝礼	14:00	休憩
8:35	送迎開始②	14:15	作業 4コマ（余暇活動）
9:00	利用者受け入れ	14:45	片付け・掃除・降所準備
9:45	朝礼・体操	15:20	終礼
10:00	作業 1コマ	15:30	送迎開始・降所
11:00	休憩	15:30	清掃・消毒
11:15	作業 2コマ	17:30	記録整理・職員ミーティング
11:45	午前作業終了		翌日準備
12:00	昼食・昼休み		職員退勤

【一週間の主なプログラム】

	月	火	水	木	金
1コマ	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	仕入れ/野菜 販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	仕入れ/野菜 販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
2コマ	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り センター販売	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り
3コマ	運動等/音楽/	野菜販売	野菜販売	野菜販売	フラダンス/

	ポッチャ (週替わりで 実施)	封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランテ ィア	封筒作成 ミサンガ作り	封筒作成 ミサンガ作り センター販売	話し合い/ 創作等 (週替わりで 実施)
4コマ	運動等/音楽 /ポッチャ (週替わりで 実施)	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り 公園ボランテ ィア	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	野菜販売 封筒作成 ミサンガ作り	フラダンス/ 話し合い/ 創作等 (週替わりで 実施)

※武蔵国分寺公園ボランティアは、月2回(第2・第4)

※障害者センターでの販売は、毎週木曜日に実施した。

※上記の作業に加え、月2回リビング折り・配布、不定期でのお仕事ネットの作業を行った。また、時期により法人広報紙封入作業、ニューズレター配架作業を実施した。

【行事】

4月	開所式	1日	利用者15名、職員5名
7月	家族会	11日	参加者8名
10月	市民活動フェスティバル	1日～31日	分散型イベントとして開催。 この里販売所として参加。
	歯ミカップ	20日	オンライン開催。利用者13名 職員6名
11月	国分寺市ぶんぶん ウォーク	18～30日	スタンプラリーの拠点として参加。
12月	多摩川競艇販売	16日	利用者3名、職員1名
	クリスマス会	19日	利用者15名、職員6名
	大掃除	27日	利用者15名 職員5名
1月	成人を祝う会	13日	利用者15名 職員6名
3月	法人設立20周年記念 ポッチャ大会	22・28日	利用者15名 職員6名
	ブラッシング指導	23日	利用者15名、職員6名
	Heart de Festa	25日	15時～16時半。2部に分けて実施。 利用者12名 職員4名
	家族会	27日	参加者12名

⑦ その他

*利用者工賃：毎月25日支給

*見学/実習受入れ：武蔵台学園3年生1名、2年生2名、1年生2名

その他実習5名

社会福祉士実習2名、社会福祉現場体験実習6名

*地域施設活用：武蔵国分寺公園、国分寺市障害者センター、本多公民館

2 共同生活援助事業 ケアホームひかり・ケアホームこの葉

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

上半期は特にコロナ禍の影響を大きく受け、約2か月に渡って感染者が順に発生する状況となった。各ユニットにおいて隔離しての生活となり、様々な制約がある中で、不安定になる利用者もいた。また、感染防止のためにご自宅に戻る方もおり、利用率も前年度並みであった。この状況を受け、11月に東京都主催の高齢者・障害者入所施設向け出張研修「新型コロナウイルス感染防止対策実地研修」を管理職と主任で受講し、マニュアルや備品等の準備、感染者発生時の隔離や支援の方法について整備を行った。12月に再び感染者が複数名発生したが、マニュアル等、研修の内容を反映し、適切な支援環境を整え短期間での終息につなげた。職員の配置については、管理職や他事業の職員によるサポートを継続しつつ、新たな人材の確保に取り組んだ。求人媒体などの活用、派遣から直接雇用への切り替えへの働きかけなどを行った。

2) 利用者支援

利用者の多くは、コロナ禍における生活に馴染みつつあったが、ユニット内で感染者が続いたことにより、通所ができず自宅待機、隔離期間が続き、精神的に不安定になる方もいた。状況を丁寧に説明し、気持ちに寄り添うことに努めた。また、健康管理の面では、ご家族や訪問診療とも連携を密にとり、安心・安全に生活できるよう、取り組んだ。一方で、下半期には少しずつ制限が緩和され、利用者一人ひとりの生活の幅が広がるよう外出や地域活動への参加の機会を増やした。

3) OJTの実施

年3回の課長面談を予定していたが、コロナ禍の状況により期初と期末の年2回の実施となった。しかし、世話人会議が前年度より定着したことにより、管理職と主任間のコミュニケーションが円滑になり、事業運営上の課題やその時々での取り組みについて、一緒に考えていく体制ができてきた。各職員へのOJTにおいても、管理職と主任が話し合いながら進め、特に契約職員については次代を担う職員として、意図的なOJTを実施した。また、日常の中のコミュニケーションを大切にし、上長に相談がしやすい風通しの良い職場作りに取り組んだ。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 安心・安全な生活環境の提供	感染防止対策は引き続き実施しつつ、ユニットにおいて、利用者の特性に応じた、安心・安全な生活環境の整備に努めた。その中で、ケアホームひかりでは新	変化しつつあるコロナ禍の社会を鑑みつつ、状況に応じた生活環境の整備に取り組む。生活の中で、コロナ前に戻す部分、

	<p>規利用者1名を迎え入れた。</p> <p>この葉では、生活環境を変えることが必要となった利用者が2名おり、1名は他事業所への移行となり、もう1名は自宅での生活に戻った。ともに関係機関と十分な協議を行い、職員間での共有認識を徹底し、次のステップに向かえるよう努めた。11月に東京都の新型コロナ感染防止実地研修を受講し、感染防止対策や感染者発生時の対応を見直し、マニュアル化を図り、職員に周知を図った。12月にケアホームひかりで感染者が発生した際には、この内容を基に対応を行い、感染拡大を防ぐことができた。誕生日会やクリスマス会などは、引き続き少人数にて実施したが、個別での外出などを増やし、一人ひとりの利用者の余暇活動につなげた。</p>	<p>現状を維持する部分、新たに取り組む部分を整理して、利用者が安心・安全に生活できるよう、支援を行っていく。利用者一人ひとりの意志や希望を尊重しつつ、グループホームが生活の基盤となるよう、コミュニケーションを密に取っていく。ご家族や関係機関、訪問診療等と連携・協力し、健康と生活を支えていく関係を構築していく。</p>
<p>2. ケアホームひかり</p>	<p>高齢化や重度化に向けた障害や生活状況の変化を見据えて、アセスメントや支援の見直しを図るため、利用者一人ひとりの変化を測れる様式作成に取り組んだ。年度末には様式案が完成し、次年度からの施行に向けて協議を行った。</p>	<p>令和5年度は、各ホームで対象者を決め、様式を用いたアセスメントの試行を行う。併せて、高齢部門との連携を図るため、各ホームの所在地域の地域包括支援センターとの関りを作っていく。また、利用者一人ひとりのニーズや変化に応じた支援となるよう、気付き、共有する意識のもと、安定した生活の提供に取り組む。</p>
<p>3. ケアホームこの葉</p>	<p>あい、いろはユニットでは、定期的スタッフ会議にて、ケース検討の時間を重要視し、職員間で支援の方向性をすり合わせる機会を設けた。併せて、今までいろはスタッフ会議内で行っていた、みらいユニット会議について、職員配置が定着し、ユニット毎の会議をそれぞれ設けた。3ユニット毎にスタッフ会議を行うことで、支援の方向性</p>	<p>あいユニットでは、職員体制を整えながら、短期入所事業の運営も含めて、支援体制を整えていく。いろはユニットでは、コロナ禍で自粛していた土日の余暇活動や地域参加を再開し、いろはでの生活の更なる充実を図る。みらいユニットにおいては、グループ</p>

	<p>がより明確となった。あいユニットにおいては、世話人が夜勤中心の勤務となったことで、OJTの機会を定期的に出せることが難しかった。いろはユニットにおいては、週に40時間従事する職員の業務分担を明確にしたことで、運営の安定化に繋がった。みらいユニットにおいては、新型コロナウイルスの影響もあるが、在寮日数が著しく低下しており、グループホームに生活基盤を置くための支援を構築する必要がある。</p>	<p>ホームを利用している目的を改めて確認し、利用者の生活基盤がグループホームとなるよう支援を行う。支援体制も含め、安定した運営を目指す。</p>
--	---	---

3. 利用者の状況等

1) 利用者状況

【ケアホームひかり】

① 利用者数 12名 (男性 6名 女性 6名)

② 年齢別利用者数 (令和5年3月31日現在) 平均 44.6 歳 (単位:人)

30代	40代	50代	60代	合計
3	6	2	1	12

③ 利用者の障害程度区分 (令和5年3月31日現在) 平均 4.1 (単位:人)

区分3	区分4	区分5	区分6	合計
4	4	2	2	12

④ 障害別利用者数 (重複あり) (単位:人)

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	11	4	16

⑤ 行事

誕生会	利用者誕生日ごと
家族会	6月16日、29日に実施。密を避けるため、2回に分けて実施
避難訓練	予定していた日程にコロナ陽性者が発生したこと等が重なり、未実施。

⑥ 会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月1回実施。その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月1回、定期開催	2つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援、研修など
個別支援会議	利用者の誕生月及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認 相談事業所との連携

【ケアホームこの葉】

① 利用者数 13名 (男性 8名 女性 5名)

② 年齢別利用者数(令和5年3月31日現在) 平均36.7歳 (単位:人)

20代	30代	40代	50代	合計
4	4	4	1	13

③ 利用者の障害程度区分(令和5年3月31日現在) 平均4.3 (単位:人)

区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
2	3	2	0	6	13

④ 障害別利用者数(重複あり) (単位:人)

精神障害	知的障害	身体障害	合計
1	11	5	17

⑤ 行事

誕生会	利用者誕生日ごと
家族会	6月24日30日に実施。密を避けるため、2回に分けて実施
避難訓練	予定していた日程にコロナ陽性者が発生したこと等が重なり、未実施。

⑥ 会議等の実施状況

定例のスタッフ会議を毎月1回実施。その他、以下の会議を開催した。

名称	開催日等	内容
世話人会議	毎月1回定期開催	2つのGHの運営面の調整、支援の見直し、家族支援、研修など
個別支援会議	利用者の誕生日及び個別支援計画見直し時	個別支援計画案の検討、確認 相談事業所との連携

3 KOCO・ジャム短期入所事業

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

コロナ禍であったこともあり、ここ数年は積極的な受け入れを実施してこなかった。その中で、男性ユニット、女性ユニットそれぞれの課題があり、ユニット内に設置された短期入所事業の運営を現在も模索している。女性ユニットでは、令和4年度下半期より受け入れを開始した。年度末には、2名の方の定期利用に繋がっている。引き続き、現在利用されている方も含め、令和5年度は定期的な利用者を増やしていきたい。また、定期的な利用でのサービスを提供することは、アセスメントをしっかりと行うことも求められる。継続利用する中で、課題や成果を示す支援を提供していきたい。男性ユニットでは、現状配置されているユニットでの短期入所事業の運営の難しさを感じている。実状にあった運営方法の再検討を行いたい。

2)利用者支援

アセスメントやニーズ、目標の把握の点から、これまでは法人内他事業利用者の利用から受け入れを行ってきた。利用者の障害特性の理解、連携が図られていたことから、大きな混乱はなく進められている。今後は、新しい方を受け入れ、実践を振り返り、検証する一連の作業が必要となる。これらのことを職員間、他事業所、ご家族と連携し進めることが求められ、この点を意識して取り組んでいきたい。支援を重ねることで、支援力、チーム連携等の強化を図っていきたい。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 運営の基盤の整備	<p>上半期は、コロナ感染対応を含め、この葉入居者の安心安全な環境提供に追われ、受け入れ要綱を精査することができなかった。下半期にはおおよその土台は出来上がった。</p> <p>受け入れから支援までのシステムに関しては、上半期に受け入れがなく、下半期も1月からの受け入れとなっている為、実践する機会がなく、確立するまでには至っていない。</p> <p>定期的な利用受け入れに関しては、上半期は、グループホーム入</p>	<p>受け入れの現状と合わせながら、更に精査し、要綱に則って、法人外の新規利用者の受け入れを進めていく。</p> <p>下半期の利用受け入れ実績をもとに検証し、支援開始以降の流れについて、来年度以降、支援を継続する中で、システムを確立する。</p> <p>女性ユニットについては、法人の事業以外からの受け入れを行い、</p>

<p>2. 目標を見据えた利用者支援</p>	<p>居者の生活が安定せず、受け入れ環境を整える事が出来なかったため、利用希望者はいたが、あえて利用を延期した。下半期は、あいユニットにて、2名の利用者の定期的な利用を受け入れた。法人の事業以外の利用者については、着手できる状況まで至っていない。男性ユニットについては、現状のグループホームが居住する中で、利用者を受入れることが難しいと判断し、新たな運営方法について検討を始めた。</p> <p>短期入所事業利用前のアセスメントシートを令和3年度作成し実際活用することを計画していたが、上半期受け入れがなかったため、実践する機会がなかった。下半期において作成したシートを活用することとなった。</p> <p>利用者のニーズや目標を的確に捉えることについては、他事業所から情報を収集し、それらのことをもとにアセスメントシートに落とし込んでいくことを実践した。利用者が少ない状況ではあったが、ニーズの把握、把握したことに基づき目標を設定することは、アセスメント時に可能はであるが、目標をもとにした支援をアセスメント時に設定するのではなく、利用する中で更に具体的にすることが必要であることが分かった。</p> <p>グループホーム利用者との兼ね合いと環境を踏まえた支援体制の整備については、女性ユニットにおいては、支援期間が短いということ</p>	<p>定期的な利用を開始する。男性ユニットでの受け入れに関しては、グループホーム利用者の特性や現状を鑑みて、運営方法の再検討が必要。次年度は、現状に即した方法に変更し、受入れを開始する。</p> <p>実際アセスメントシートを活用したことで、アセスメントから利用開始までの期間が短く、職員への周知が十分難しいこと、アセスメントを誰がどのように行うのか等の課題が明確となった。これらの課題を検討しつつ、新規利用者の受け入れを目指す。</p> <p>目標の内容、設定するタイミング、時間等、検証すべき項目について明確にし、その内容で実践を重ねていく。</p> <p>実践を行いながら、管理職と主任とのすり合わせを重ね、それぞれの役割を明確にして、改善策に取り組む。また男性ユニットに関し</p>
------------------------	--	---

<p>もあり、管理職と主任・常勤職員とのすり合わせにとどまり、職員全体での検討は出来なかった。男性ユニットについては、支援体制を考える中で、現状の受け入れ環境を検証する必要があると判断し検討を始めた。</p> <p>職員がニーズと目標を理解し支援を行うことについては、この葉スタッフ会議にて、短期入所事業について話し合う機会を設け、短期入所事業の中で取り組む支援のイメージを共有した。しかし、事業運営に関して共通認識を持つことができたが、実際の利用者一人ひとりの支援について、協議する時間を持てなかった。また、ニーズや目標の理解も、短時間勤務者、夜勤のみの勤務者もいる中で、職員間での差があり、今後の課題である。</p>	<p>ては、受け入れ環境の検証を踏まえ、支援体制を整えていく。</p> <p>短期入所の支援に関する項目を、どのように設定して話し合っていくのか、スタッフ会議全体の運営を見直し、短期入所事業としての支援について話し合う機会を持つことが必要である。雇用形態の異なる職員は従事していることから、全てを共有し同じレベルでの理解を求めることには限界があるが、コミュニケーションを強化し取り組んでいきたい。</p>
--	--

3. 利用実績

① 利用者数 2名 (男性0名いろはユニット、女性2名あいユニット)

② 年齢別利用者数(令和5年3月31日現在) 平均41.5歳 (単位:人)

20代	30代	40代	合計
0	1	1	2

③ 利用者の障害支援区分(令和5年3月31日現在) 平均4.5 (単位:人)

区分4	区分5	合計
1	1	2

④ 障害別利用日数/利用実績 (単位:日)

	精神障害	知的障害	合計
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0

9月	0	0	0
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	8	8
2月	0	12	12
3月	0	12	12
合計	0	32	32

4 居宅介護支援事業 ウィング

1. 事業全体を振り返って

1)事業運営

令和4年度は、コーディネーター2名体制での運営となったが、想定していたとおりには利用者数を増やすことができなかった。重度訪問介護については、依頼自体が少なく、支援時間を増やすことは難しい為、令和5年度は、徐々に支援数、時間が増えている居宅や移動支援のサービス増加に取り組みたい。また、サービス時間を増やす際、利用者数と介護人数との兼ね合いがあることから、現在実施している1件のサービス提供時間数を増やし、現在従事している介護人で可能な対応を実施していきたい。

2)利用者支援

コロナ禍において、できる限りの支援を行ってきたが、利用者がり患した際は感染対策の徹底を図り、サービス提供の継続に努めた。半面、職員がり患した際、従事できる者がいない為、サービスの中止をせざるを得なかった。これらの経験により、現登録介護人の支援の幅を広げることと合わせ、どんな状況になっても支援が継続できるよう、KOCO・ジャム内他事業所、同じ市内にある他事業所と連携して支援できるよう連携の構築を図りたい。

3)OJTの実施

年3回の課長面談を予定していたが、コロナ禍の状況により期初と期末の年2回の実施となった。今年度よりコーディネーター2名体制となり、事業計画を共有しながら、それぞれの役割を確認した。新任コーディネーターはコーディネーターとしての業務引継ぎを行い、業務分担を進めた。主任においては、担っている業務を振り分け、空いた時間でヘルパーも含めた職員育成に力を入れるよう目指したが、ヘルパー不足もあり、現場の支援に入ることも多く、目標としていたヘルパーの面談が実施できなかった。研修を兼ねたヘルパー会議は、上半期には、感染症が拡大傾向の時期と重なり延期となった。しかし、下半期に11月に虐待防止についてのミニ研修を行い、3月に居宅支援ヘルパー向けの移乗方法と移動支援ヘルパー向けの移動支援時の緊急対応といった、対象者を分けて研修を行った。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

個別事業名	到達状況	課題
1. 運営体制の安定	コーディネーター2名体制で担当できる上限数まで、利用者数を増やすことは出来なかった。しかし、この間取り組んだことの効果は少しずつ出始めている。年度末には、4月に比べて居宅サービスでは利用者が6名増加した。来年	重度訪問介護については、依頼自体がなく、支援時間数を増やしていくことは難しい状況が見えてきた。そのため、令和4年度に支援数が徐々に増えてきている居宅や移動支援サービスを増やし、収支のバランスを図っていききたい。また、ヘルパーの

<p>2. ヘルパーの確保と定着</p>	<p>度も業務の効率化を図りながら、新規受け入れに対する外部へのアプローチを継続する。また、ヘルパー確保とのバランスを考えながら、受け入れの増加を図る。</p> <p>募集のチラシを作成し直し、現在不足している地域や、若い世代を狙ったエリアに配布を行った。併せて、大学や職業訓練校、地域や移動支援連絡会でのチラシ配布を行い、ヘルパー希望の問い合わせが増え、確実に登録ヘルパー数も増えている。また、移動支援連絡協議会の研修を通して、実習生を受け入れ、事業所を知ってもらう機会となった。</p> <p>2月に実施した移動支援者養成講座終了後、2名の方が登録にいった。</p>	<p>人数との兼ね合いから、上限数を確保することは難しいと考え、受け入れ件数を伸ばすより、1件の時間数を増やすことで、現登録ヘルパーでの対応を可能にしていきたい。</p> <p>全体のヘルパー登録者数は増えているが、男性ヘルパーが少ない現状は続いている。また、居宅や移動、育児それぞれとの支援数と支援できるヘルパーとのマッチングを図り、支援を受けたいのに受けられない、働きたいのに支援がないという状況がうまれないよう取り組むことが必要である。</p>
----------------------	---	---

3. 活動状況

①派遣状況

	派遣時間 (時間)	利用者 (人)	居宅	重訪	同行	移動		育児	エル
						知的	児童		
4月	543.00	47	22	6	9	8	0	1	1
5月	551.75	52	22	6	9	14	0	0	1
6月	476.00	56	23	6	10	15	0	1	1
7月	581.25	57	23	6	11	15	0	0	2
8月	538.75	50	23	5	9	9	0	2	2
9月	581.50	53	24	6	8	11	0	3	1
10月	587.00	55	24	6	10	12	0	2	1
11月	671.25	59	24	6	10	13	0	3	3
12月	583.00	57	25	6	10	13	0	1	2
1月	568.00	63	28	6	9	15	0	4	1
2月	543.50	62	29	6	11	12	0	3	1
3月	646.75	64	31	6	10	13	0	2	2
合計	6871.75	675	298	71	116	150	0	22	18

② サービス別派遣時間

	身体 介護	家事 援助	重度 訪問	同行 援護	知的 移動	児童 移動	育児 支援	エル	合計
4月	23.00	98.00	225.50	108.50	62.50	0.00	7.50	18.00	543.00
5月	30.50	99.75	199.50	110.00	96.00	0.00	0.00	16.00	551.75
6月	25.00	109.00	130.00	96.00	97.50	0.00	2.00	17.00	476.00
7月	27.00	103.75	208.00	119.00	89.00	0.00	0.00	34.50	581.25
8月	27.50	106.25	226.50	81.00	59.50	0.00	20.00	18.00	538.75
9月	33.00	101.00	225.00	101.00	80.00	0.00	23.50	18.00	581.50
10 月	33.00	101.50	208.00	115.00	98.50	0.00	14.00	17.00	587.00
11 月	27.50	98.75	222.00	191.00	94.00	0.00	15.50	22.50	671.25
12 月	28.00	103.00	219.00	113.50	91.00	0.00	9.00	19.50	583.00
1月	33.50	118.00	202.00	79.00	98.00	0.00	19.50	18.00	568.00
2月	26.50	120.00	179.50	91.50	96.50	0.00	13.00	16.50	543.50
3月	25.50	131.25	231.50	144.50	91.00	0.00	4.00	19.00	646.75
合計	340.00	1290.25	2476.50	1350.00	1053.00	0.00	128.00	234.00	6871.75

③ 会議等の実施状況

定例会議を毎月実施。ヘルパー会議及びヘルパー向け研修会の実施は、上半期は新型コロナウイルスの影響より延期し、下半期に4回に分けて実施。

IV 基幹相談支援センター

1 事業全体を振り返って

1) 事業運営

市との仕様書にある事業は、全て予定通り遂行した。特に力を入れた2つの取組について説明する。基幹相談支援センター（以下「基幹」という。）独自のウェブサイトを立てるため、令和3年度より準備を開始し、令和4年4月より正式に運用を開始した。このウェブサイトは、基幹の取組を広報すると共に、市内の相談支援専門員の業務サポートのために開設した。令和3年4月から1年間の法人ウェブサイト全体の訪問数は14,929件、ページ閲覧数34,669件で、その中の基幹ページ閲覧数が年間1,499件に対し、基幹独自のウェブサイトは、年間の訪問者数15,245人、ページ閲覧数が116,006件と利用されており、法人ウェブサイトの基幹ページと比べ、基幹独自のウェブサイトの閲覧数が大幅に増えていることが分かった。今後に向けて相談支援専門員・専用ページでは、連絡会・研修等の日程、相談支援の加算についての情報、国分寺様式集等、業務に必要な情報や資料を取り出すことができるGoogleマイマップを作成中である。障害福祉サービス別の事業所および各種アウトラインを地図化（見える化）し、激務である相談支援専門員の業務軽減に貢献していく。

2つ目は、市内の地域包括支援センター（以下「包括」という。）全6事業所を初めて訪問し、地域の特色や課題についてインタビューを行った。訪問で聞き取った地域課題等は情報整理し、障害福祉課と共有し、研修や会議のテーマとして取り上げた。特に、スキルアップ研修ネットワーク研修Ⅱ（高齢分野－障害分野）では、包括職員と相談支援専門員が連携して支援し、65歳の壁をスムーズに乗り越えることができた成功事例を扱った。講評を依頼した国分寺市障害者地域自立支援協議会会長の石渡和実先生からも高齢分野と障害分野の連携について期待を寄せていただいた。また、この訪問をきっかけに世帯に渡る支援が必要な家族に対し、連携した支援が始まっている。包括からも8050問題の解決、65歳の壁問題の解決に向けて期待を寄せていただいております、令和5年度も継続して訪問し、交流・連携を深めていきたい。

2) 利用者支援

包括から基幹への相談で始まった利用者支援は、高齢の親（80歳代）と障害の子（50歳代）を高齢福祉課・包括・ケアマネ・介護保険サービス事業所・障害福祉課・相談支援事業所・障害福祉サービス事業所・権利擁護センター・生活福祉課・民間企業・警察・基幹が連携し、本人と家族を支える地域の支援ネットワークを作り上げた。今後、本格的に開始されようとしている重層的支援体制整備事業にも通じる多分野・多職種が連携した支援の取組となり、数年にわたり行われていた高齢福祉課主催の虐待防止ネットワーク（個別ケース）を解決に導き、終了することができた。この家族は、今後も各支援者が見守り、支援を継続していく予定である。今後、8050問題への取組と共に問題が顕著に現れ始めた障害者の高齢化問題についてもテーマとして取り上げ、地域の支援者全体で学ぶ機会を作り、検討を深めていく予定である。

2. 事業計画の個別事業の進捗状況と課題

個別事業名	目標に対する到達状況	課題
相談支援事業所のサポート	・1/4期内に、全事業所（12事業所）との面談を状況に合わせ、訪問または、来所で行った。	・事業所訪問、初任者研修、現任者研修は年間を通してスケジュールリングする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・市と質問内容を協議し、事前にメールすることで効率的に聞き取りができるようにした。 ・聞き取った内容から、研修や事例勉強会のテーマ、協議会での地域課題の検討、個別のコンサルテーションに結び付けた。 ・市運営の相談支援事業所（障害児）ケースの事業所引継ぎと令和6年度からの運営について、事業所・市・基幹の三者打合わせを定期的（年間6回）に開催した。 ・相談支援従事者初任者研修は、市内の相談支援体制の説明が全員共通する項目であることから動画を作成し、案内した。個別ケースを通しての気づきや現任者研修では、個別ケースから地域課題を一緒に検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所のアウトソーシングが完了した段階で三者打合わせは解散する。 ・主任相談支援専門員との役割分担について検討していく。
<p>コンサルテーションの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予定では9ケース×2時間=18時間のところ9ケース（10回）×2時間=20時間実施した。 ・昨年度コンサルを受けた事業所は4事業所だが、働きかけにより、6事業所の相談支援専門員にコンサルテーションを体験してもらえた。 ・講師として、公認心理師・サービス事業所施設長・精神科医等の専門家を招いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、新規の相談支援事業所にコンサルテーションの利用について丁寧に説明し、困難ケースについて利用していただくよう案内する。
<p>相談支援専門員研修の企画・運営</p> <p>基本</p> <p>新任研修1回/年</p> <p>ブラッシュアップ研修1回/年</p> <p>勉強会2回/年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新任研修 1回 障害福祉課：支給決定基準 経済課：消費生活相談について ・ブラッシュアップ研修 2回 ① 臨床心理士：神経生理学の基礎 ② 都立武蔵台学園特別支援教育コーディネーターとの交流、意見交換 3回 ・事例勉強会 3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員同士の交流、スキルアップのための知識、教育との連携、メンタルヘルス等、意見を取り入れ予定調整する。

	<p>児童から成人へ相談支援事業所移行 (7ケース)</p>	
<p>支援者向け虐待 防止研修の企画・ 運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会場とオンラインのハイブリットで開催した。 ・毎年12月に開催し、支援者間に定着してきた。 ・令和4年度より、福祉関係者は悉皆研修となった。参加者:オンライン125名、会場28名 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数を増やすための工夫を今後も検討する。 ・令和5年度は講師に障害者の高齢化を研究する方を予定。
<p>ネットワーク 研修の企画・運営</p> <p>スキルアップ研修Ⅰ・ Ⅱ・Ⅲ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク研修Ⅰ(地域移行)は精神科病院3病院に講演依頼した。研修Ⅱ(高齢福祉-障害福祉の連携)は、包括の協力を得て開催した。研修Ⅲ(障害児)は、東京都教育庁都立学校教育部学校健康推進課で障害者の性教育をテーマに活動されている職員と就労支援施設(性を取扱う民間企業が運営)の施設長を講師に招き開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の研修講師は、 研修Ⅰ 精神科病院のNs。 研修Ⅱ 精神科Dr。 研修Ⅲ 予定した講師が異動のため再度検討中。 ・これまでの研修報告書を順次基幹ウェブサイトに掲載する。
<p>自立支援協議会 マネジメント 業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会3回・事務局会議6回 ・相談支援部会3回・事務局会議3回 ・就労支援部会3回・事務局会議3回 ・精神保健福祉部会4回、事務局会議4回 ・相談支援事業所連絡会12回 ・障害児通所支援事業所連絡会2回 ・地域移行等支援連絡会19回 ・ニュースレター発行2回 <p>全協議会に委員及び事務局として運営に関わった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースレターは第11号よりリニューアルし支援者から当事者に必要な情報が届けられるような内容に変更した。11号は相談支援事業、12号は児童発達支援事業を特集として取り上げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特集を組む施設は直接取材をする。 ・ニュースレターとウェブサイトを連動させ利便性や情報量の充実を図る。 ・第13号は地域活動支援センター、第14号は短期入所を特集として特集として取り上げる。

<p>市との定例協議</p> <p>その他連絡会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市－基幹定例協議 12 回 ・国分寺障害者施設担当者意見交換会 4 回 ・医療的ケア児支援関係者会議 3 回、事務局会議 3 回 ・基幹相談支援センター連絡会 2 回 ・地域ケア会議権利擁護部会 2 回 ・消費者見守りネットワーク協議会 3 回 ・権利擁護関係機関連絡会 3 回 ・発達障害者関係機関情報交換会 2 回 ・高次脳機能障害関係機関連絡会 2 回 ・障害者/高齢者実務従事者虐待防止ネットワーク 2 回 ・社会福祉協議会、成年後見に取り組む民間事業所との面談の機会を今年度初めてもった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設担当者意見交換会は、令和 4 年度で一旦終了した。 ・医療的ケア児支援関係者会議は副会長及び事務局で関わる。 ・地域ケア会議、消費者見守り、虐待防止ネットワークは委員として参加し、その他は自主的に参加する。 ・社協、民間事業所との情報交換は今後も継続する。
<p>緊急度の高いケースの把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員の訪問に市と基幹で同行し、緊急入所保護事業の説明を行い、把握した情報は市と共有した。 (3 世帯・4 人) ・緊急携帯は、センター長、主任、職員 1 名で持ち夜間、休日に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急入所保護事業は市内で行われているが、殆どの相談が日中に入っていると市から報告があった。セルフプランが増えている中、早めの連絡が定着しているのか検証が必要である。

3. 人材育成

職員一人当たりの研修参加目標を、年間 6 回以上として出発したが、令和 4 年度は、一人当たり平均で 10 回以上の研修に参加した。各職員、月 1 回は何らかの学びの機会を得て、研修報告書や基幹会議等で情報共有している。また、ヒヤリハットでは、1 日 1 回は気づきを職員間で共有することを目標にしてきた。今年度も営業日数分の気づきをヒヤリハット報告書としてあげることができた。例え、失敗したとしても、素直に報告しあえる職場内の心理的安全性が確立し、職員間で対策を検討し、次の業務に活かすことができるようになった。ヒヤリハットをあげ続けた結果、令和 3 年 3 月に 1 件、事故報告（一時停止違反）があったのを最後に、事故報告に当たる事態は起きていない。日々の報告書作成は、簡潔に事態を説明する力、対策を検討する力、人にわかる文章を書く力を育てる良い訓練となり、研修報告や、自立支援協議会等の記録作成にも活かされている。職員一人ひとりの個性を活かし、得意とする力を十分に発揮すると共に、不足のあるところはまた別の者が力を発揮して修正していくチームとしての力が育ってきた。目標を 1 つにしなが、それぞれが違うところで力を出しあい目的を達成していく成熟した組織になろうとしている。

●職員育成・課長面談の実施結果の状況

	概況と到達	課題
専門性の獲得 とネットワーク作り	研修、連絡会等への参加回数 ・研修 27 回、講演会 40 回、連絡会 7 回、説明会 2 回、情報交換会 4 回の計 80 回で平均一人当たり 16 回の学びの機会を作り、情報共有した。	・得た情報や知識は基幹職員だけで共有せず、研修会に講師を招く等、広く市内の支援者に向けても情報発信する。
業務の質の変化と効率化	・令和 4 年 6 月より Web データベース型業務アプリ構築クラウドサービス Kintone(キントーン)を導入した。従来、紙媒体による保管を行っていた各種書類(研修報告書、相談支援記録、議事録など)を電子媒体(PDF)で管理することが可能となり、キーワード検索によって、必要な情報へのアクセスが格段にスピードアップした。あわせて、肥大化する紙媒体の保管スペースの大幅な削減に成功し、防犯・災害対策の面でもデータの安全性が堅固になった。さらに、利用者相談記録、協議会・研修等活動記録、地域体制強化共同支援加算管理など、基幹の業務に応じたカスタマイズ性に優れた自社アプリの開発環境が整ったことで、即応的な業務効率の改善・向上が実現した。 ・相談支援従事者初任者研修において、市内の相談支援体制の説明動画(15分)を作成し、8名に対し事前学習を依頼した。8回同じ話をする手間を削減した。 ・ウェブサイトを充実させ、相談支援専門員の業務サポートの質を向上させた。	・報告書作成の効率化を図るため 音声文字変換システムの導入を検討する。
ヒヤリハットの提出	・報告数の目標を営業日数とし、全月達成した。 ・行動指針に当てはまらない事態を基幹で集積した。部門会議で行動指針の加筆、修正を提案し、令和 4 年 7 月に改訂を行い、全職員に周知された。	・行動指針にない事例が発生した時は、引き続きメモを残しておき、部門会議で行動指針の加筆、修正を提案する。
実践研究・実践報告事業	〈基幹設置 10 周年キャンペーン事業〉 ・令和 4 年 3 月 10 日イメージキャラクター「とわぶる」誕生	・次回の実践研究発表は令和 6 年度のため、それまでに年次報告書のフ

<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月1日号の市報に掲載 ・ 4月「とわぶる」記念クリアファイルを関係者に配布 ・ 8月31日10周年アニバーサリーレポート完成 ・ 9月から関係者に配布 ・ 封筒や名刺も「とわぶる」を使用に変更した ・ 11月民間企業の協力で「とわぶるクッキー」を100枚製造した。 ・ 12月2日の虐待防止研修でネットワーク研修Ⅲの周知に「とわぶるクッキー」を配布。 ・ 令和5年3月10日実践報告として『10周年事業の振り返りと展開』を発表し、これまで実践研究に関わってくださった方々に動画を作成し、報告した。 	<p>フォームを作成する。</p>
--	-------------------

4. 活動実績

令和4年度 相談業務実績（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

相談支援件数	3,916件
--------	--------

【個別ケースに関わる相談業務】

支援方法別件数

	訪問	来所相談	同行	電話等相談	電子メール	個別支援会議	その他	計
件数	225	222	4	1,358	84	86	6	1,985

支援内容の内訳

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や症状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援
件数	1,487	328	502	204	29	526	206	335

	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	虐待防止に関する支援	地域移行・地域定着に関する支援	その他	計
件数	79	26	32	82	87	100	4,023

【地域のネットワーク体制の構築及び研修等に関わる業務】

支援方法別件数

	訪 問	来所相談	電話等 相談	電子メール	その他	計
件数	225	193	781	726	6	1,931

【月別対応件数】

	個別相談件数	対応ケース数	その内の 新規ケース数	個別相談以外
4月	227	63	21	191
5月	252	48	10	144
6月	212	71	16	210
7月	159	63	10	136
8月	172	64	11	163
9月	132	47	9	203
10月	197	54	6	183
11月	129	42	6	172
12月	155	35	8	123
1月	160	46	6	135
2月	91	29	3	127
3月	99	30	2	144
合計	1,985	197	108	1,931

【地域の相談支援事業者の研修等】

日付	テーマ及び内容	対 象	備 考
5月19日	【事例勉強会】事例検討 児童から成人へ相談支援事業所移行ケース 4件	・相談支援事業所	参加者：15名
6月17日	【ネットワーク研修Ⅰ（地域移行）】 「地域支援機関と精神科病院との連携～連携事例を共有し、具体的な取組につなげよう～」 講師：前沢 高志 氏 公益財団法人井之頭病院相談室 ソーシャルワーカー 講師：大西 保正 氏 医療法人社団東京愛成会高月病院地域連携室 室長 講師：松村 洋明 氏 医療法人社団根岸病院 常務理事/精神保健福祉士	・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・障害福祉サービス通所支援事業所 ・共同生活援助事業所 ・地域包括支援センター ・行政 ・精神科病院 ・精神科クリニック ・訪問看護ステーション	参加者：39名 ・障害福祉サービス事業所（障害）：16名 ・精神科病院：7名 ・地域包括支援センター：9名 ・行政他：7名

6 月 21 日	<p>【新任研修】 「支給決定基準について」 講師：千田 孝一 氏 国分寺市福祉部障害福祉課事業推進係 係長</p> <p>「消費生活相談について」 講師：長澤 いつわ 氏 国分寺市市民生活部経済課消費生活相談室 消費生活相談員</p>	・相談支援事業所	参加者：13名
7 月 21 日	<p>【事例勉強会】ケース検討 児童から成人へ相談支援事業所移行ケース4件</p>	・相談支援事業所	参加者：14名
8 月 18 日	<p>【事例勉強会】ケース検討 児童から成人へ相談支援事業所移行ケース1件</p>	・相談支援事業所	参加者：11名
9 月 15 日	<p>【ブラッシュアップ研修】 「神経生理学の基礎」 講師：角田 みすゞ 氏 ベル相談室 公認心理師/臨床心理士</p>	・相談支援事業所	参加者：11名
10 月 20 日	<p>【ネットワーク研修Ⅱ（高齢福祉－障害福祉）】 「障害福祉から介護保険へ ～調整期間の有効活用を考える～」 講師：石渡 和実 氏 東洋英和女学院大学名誉教授 国分寺市障害者地域自立支援協議会 会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・地域包括支援センター ・社会福祉協議会 ・行政 	<p>参加者：37名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所：16名 ・地域包括支援センター：7名 ・社会福祉協議会：4名 ・行政他：10名
12 月 2 日	<p>【支援者向け虐待防止研修】 「事例から学ぶ虐待防止 ～虐待防止の取組は職員も救う～」 講師：山内 哲也 氏 社会福祉法人武蔵野会 リアン文京 総合施設長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・障害福祉サービス通所支援事業所 ・障害児通所支援事業所 ・共同生活援助事業所 ・居宅介護事業所 ・短期入所事業所 ・保育、教育機関 ・行政機関 ・その他福祉関係者 	<p>参加者：153名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン：125名 ・会場参加：28名
1 月 20 日	<p>【ブラッシュアップ研修】 「特別支援教育コーディネーターの業務・役割について」 講師：野口 浩一 氏 東京都立武蔵台学園 主幹教諭 / 特別支援教育コーディネーター 講師：松田 稚佳子 氏 東京都立武蔵台学園 特別支援教育コーディネーター</p>	・相談支援事業所	参加者：14名

2月21日	<p>【ネットワーク研修Ⅲ（障害児）】 「福祉職の性支援と多職種連携 ～今なぜ、学ぶ必要があるのか～」</p> <p>講師：笹淵 真子 氏 東京都 教育庁都立学校教育部学校健康推進課 課長代理</p> <p>ゲスト：木村 利信 氏 株式会社 TENGA 就労支援施設「able!FACTORY」施設長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所 ・地域活動支援センター ・障害児通所事業所 ・学校及び教育関係者 ・学童保育所/児童施設 ・障害福祉サービス事業所 ・共同生活援助事業所 ・行政 ・企業 	<p>参加者：46名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援機関：11名 ・障害児通所事業所：11名 ・学校及び教育関係者：5名 ・学童保育所/児童施設：7名 ・障害福祉サービス事業（成人）：8名 ・行政：2名 ・企業：2名
-------	--	---	--

【権利擁護等に関わる研修及び会議への出席】

月	日	研修名	主催	参加人数
5	25	権利擁護関係機関連絡会	権利擁護センター こくぶんじ	1名
6	22	地域ケア会議 権利擁護部会	高齢福祉課	2名
6	22	消費者見守りネットワーク協議会	経済課	2名
6	24	障害者虐待防止ネットワーク 実務者会議	障害福祉課	1名
6	24	高齢者虐待防止ネットワーク 実務者会議	高齢福祉課	1名
7	15	虐待防止研修（管理者研修）	社会福祉法人 万葉の里	1名
7	21	虐待防止研修（基礎編） 「高齢者・障害者虐待の基礎的な概念理解」	東京都多摩総合精神 保健福祉センター	1名
9	12	高齢者虐待防止ネットワーク 個別ケース会議	高齢福祉課	2名
9	28	消費者見守りネットワーク研修	経済課	1名
10	5	権利擁護関係機関連絡会	権利擁護センター こくぶんじ	1名
10	6	虐待防止研修①	社会福祉法人 万葉の里	5名
11	7	高齢者虐待防止研修 「機関間、職種間協働に必要な コミュニケーションスキルを学ぶ」	高齢福祉課	1名
11	21	高齢者虐待防止ネットワーク 個別ケース会議	高齢福祉課	2名
12	8	虐待防止研修②	社会福祉法人 万葉の里	4名
12	14	障害福祉サービス事業所職員研修 障害者虐待防止研修「精神障害を中心にして」	東京都多摩総合精神 保健福祉センター	1名
1	19	地域ケア会議 権利擁護部会	高齢福祉課	1名
1	19	消費者見守りネットワーク協議会	経済課	1名
2	9	権利擁護関係機関連絡会 「支援者向けメンタルヘルス研修」	権利擁護センター	1名
2	13	虐待防止研修③	社会福祉法人 万葉の里	3名

3	15	サポーターズカレッジ eラーニング 障がい者支援の基礎 障がい者虐待防止について「身体拘束について」	社会福祉法人 万葉の里	5名
3	17	高齢者虐待防止ネットワーク 個別ケース会議	高齢福祉課	2名

V 法人全体の取組

1. 事業全体を振り返って

1) 事業運営

令和4年度は、中期計画の初年度であり、各部門、各事業からの事業報告に記されているとおり、計画に基づく事業運営を目指した。また、それらがより計画的に円滑に進むよう、国分寺市障害者センター（以下「センター」という。）においては、全ての事業で「運営委員会」を設置した。主任、課長、部門長、事務長が参加し計画の進捗、課題の共有を図った。KOCO ジャム部門では、既存の会議を活用し、事業計画の進捗確認、検討を行った。センターと比較して、規模が小さいことから、会議で話し合われたことが、課長から主任、そして各事業に所属する職員へと情報が共有され、計画に基づく運営を各職員が意識して取り組むことができた。今後、センター部門においても、設置した「運営委員会」を継続し、効果的な運営を行えるよう努める。世代交代を迎えることを踏まえ、部門長、課長と新たにその役割を担う人材を育てることができるよう、意識して取り組んでいきたい。

2. 事業計画の個別事業進捗状況と課題

1) 権利侵害防止の取組

虐待を発生させない労働環境をつくることを目的として、外部講師による研修を3ヶ年計画にて実施することとし、その初年度を行った。就業規則に定められている週の時間数40時間従事する職員は全員参加とし、年3回実施した。その他に管理職のみの研修を1回実施した。利用者への虐待は絶対してはならないこと、それは当然のことと理解をしている。しかし、仕事をする中で孤独感や相談できない不安、疲弊感を表出できないことで、いつの間にか職員間のチームワークが崩れてしまうことがあると思われる。職員一人ひとりがまずは、安心感を抱きながら、信頼感をもって支援できるよう、そのような労働環境を構築することを目指し引き続き取り組んでいきたい。

2) 地域交流

令和4年度も引き続き、感染症対策が求められたこと、感染者が発生した際、その対応に追われ、企画を計画し実行するには時間的な余裕がなかったことから、例年国分寺市障害者センターにて実施しているお祭りを中止した。下半期において、少しずつ感染対策が和らいでいく中、障害者週間に合わせ、地域活動支援センターつばさにおいて、市民に向け「国分寺市障害者センターを知ろう」という企画を実施した。この企画は、市民の方と一緒に、クリスマスツリーを制作することも実施し、事業レベルではあるが活動の中での地域交流に取り組むことができた。次年度は、この経験を活かしつつ、交流の機会を拡げていきたい。

3) 利用者の声をきく取組

指定管理事業として運営しているセンターでは、通所事業と短期入所事業については第三者評価を、その他の事業については利用者アンケートを実施した。満足度の結果は以下の内容である。

		回答者数		大変満足 (はい)		満足 (どちらかといえばはい)			満足計	
		人	%	人	%	人	%	人		
第 三 者 評 価	生活介護	28	29%	8	43%	12	71%	20		
	自立訓練	5	20%	1	60%	3	80%	4		
	就労B型	14	29%	4	57%	8	86%	12		
利 用 者 ア ン ケ ー ト	短期・日中	33	42%	14	42%	14	85%	28		
	計画相談	131	53%	69	30%	39	82%	108		
	地域活動 支援 センター	30	67%	20	23%	7	90%	27		
計		241	48%	116	34%	83	83%	199		

第三者評価、利用者アンケートそれぞれ、約77%、約86%、法人全体としては、約83%との結果であった。第三者評価、利用者アンケートは、一つの指標だが、今後も利用者の声を反映する取組を行い、利用者の方により満足いただけるよう努めていきたい。

4) 広報活動

法人の広報誌、各事業の通信と例年実施していることを継続して行った。併せて、今年度は、各事業の活動について、オンラインを活用し発信する等、事業を知っていただく取組も行った。実際、どのようなプログラムを行っているのか、より具体的な内容を文章ではなく、映像により発信することができた。一つの方法として、効果的な手法と捉えている。利用されている方々の個人情報との兼ね合いもあるが、発信するツールの一つとして今後も活用していきたい。その他、HPも適宜リニューアルし、タイムリーな情報をできるだけ早く、そして文言ばかりの内容とならないよう、イラストや写真をより多く活用する等の工夫を行った。

5) その他

法人設立20周年を迎えた令和4年度、そのことを記念し、ポッチャ大会を開催した。法人内全ての事業が参加し12チームにて予選会を行い、予選会の上位4チームによる決勝大

会を行った。優勝したチームは、グループホーム利用者によるチームであった。通所事業の利用者は、通所されている中で事業を超えての交流はあるが、生活の場であるグループホームの利用者が他事業の利用者、職員と交流する機会は少なく、ポッチャをとおして、互いに知り合い、言葉を掛け合う機会となった。また、参加賞として、広報委員会が企画した写真コンテストに、出品いただいた写真をもとにカレンダーを作成しお渡しした。この企画にも利用者の方々が参加くださり、ポッチャ大会をはじめ、利用者の方々と一緒に20周年を祝うことができた。

3. 人材育成

各事業の報告にあるとおり、外部研修、事例検討会、医療的ケアを学ぶ研修会と各事業、それぞれの課題を踏まえつつ研修参加、研修企画運営と実施していた。研修等への取組は、積極的に取り組んでいると思われるが、日々の支援の中でのOJTが滞ること、知らずしらずの内に職員への負荷がかかってしまい、休職する職員が発生する等、人材育成については課題を抱える一年であった。

年度途中で採用となった新任職員へは、人員の不足から即戦力としての働きを求めてしまい、結果定着率を下げってしまうこととなった。このことから、入職した際、部門長が意図的に関わり、法人が大切にしている「行動指針」を活用し伝える機会を設けることとした。また、入職後1ヶ月、3ヶ月以内実施する研修についても精査した。部門長、課長職に関わる機会を設け、日々の中で積極的に職員と関わりコミュニケーションをしっかりととり、入職者、その他の職員が定着するよう今後も努めていきたい。

休職者が多く発生したことから、産業医である行野医師と情報共有を行い、指示を受けることが多かった一年であった。一人ひとり状況は異なることから、復職訓練中も定期的に産業医との面談を行い、主治医、産業医と情報共有し、産業医の指示のもとで取り組んだ。そのことにより、医療の面からの意見を受けて訓練等を実施することができ、支える側も安心を得ることができた。

世代交代を迎える中で、人材を育てることは急務であり、重要な取組である。数年後を見越して計画を立てても期待した人材が流出してしまえば、計画を達成することはできない。「辞めない組織作り」を目指し、次年度以降も取り組んでいきたい。

VI 理事会・評議員会

1 理事会

	日時	主な議案・報告
第1回	令和4年 5月26日	議案 ①令和3年度事業報告の承認について ②令和3年度決算の承認について ③理事の選任について ④寄付金受領について ⑤令和4年度定時評議員会の招集について 報告 ①理事長・執行理事の業務執行状況報告について
第2回	令和4年 9月8日	議案 ①法人所有不動産の売却について ②令和4年度補正予算(案)について
第3回	令和4年 11月24日	議案 ①令和4年度補正予算(案)について 報告 ①令和4年度上半期事業報告について ②理事長・執行理事の業務執行状況報告について
第4回	令和5年 1月26日	議案 ①給食業務委託契約について ②国分寺市障害者センター管理業務委託契約について ③情報システム及び関連機器リース契約について 報告 ①送迎車輛運航業務委託契約について(経過報告)
第5回	令和4年 3月24日	議案 ①社会福祉法人万葉の里 就業規則一部改正について ②社会福祉法人万葉の里 非常勤職員就業規則一部改正について ③社会福祉法人万葉の里 再雇用職員就業規則一部改正について ④社会福祉法人万葉の里 給与規程の一部改正について ⑤評議員候補者について ⑥令和4年度補正予算(案)について ⑦令和5年度事業計画(案)について ⑧令和5年度予算(案)について ⑨送迎車輛運航業務委託契約について ⑩情報システム及び関連機器リース契約について

2 評議員会

	日時	主な議案・報告
第1回 定時	令和4年 6月28日	議案 ①令和3年度計算書類及び財産目録の承認について ②理事の選任について 報告 ①令和3年度事業報告について

令和4年度 国分寺市障害者センター 利用状況一覽

月	生活介護事業					自立訓練・機能訓練					自立訓練・生活訓練					就労継続支援B型					合計		
	大隅(定員:1日当り38人)					機能訓練はばたき(定員:1日当り6人)					生活訓練はばたき(定員:1日当り6人)					とー心(定員1日当り10人)					契約人数	延利用日数	平均利用者数
	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数	平均利用者数	契約人数	開所日数	延利用日数	平均利用者数				
令和4年4月	47	20	731	36.6		3	8	20	2.5		5	12	12	55	4.6	18	25	188	7.5	73	994	51.2	
令和4年5月	47	19	674	35.5		3	7	21	3.0		5	12	50	4.2	18	23	23	169	7.3	73	914	50.0	
令和4年6月	47	22	797	36.2		3	9	27	3.0		5	13	48	3.7	17	26	189	7.3	72	1,061	50.2		
令和4年7月	47	20	740	37.0		3	8	24	3.0		5	12	55	4.6	17	25	174	7.0	72	993	51.6		
令和4年8月	47	22	542	24.6		3	8	22	2.8		5	14	54	3.9	17	25	146	5.8	72	764	37.1		
令和4年9月	47	20	696	34.8		2	9	14	1.6		5	11	46	4.2	17	24	153	6.4	71	909	47.0		
令和4年10月	47	20	730	36.5		2	8	12	1.5		5	12	55	4.6	18	25	171	6.8	72	968	49.4		
令和4年11月	47	20	738	36.9		2	8	14	1.8		4	12	45	3.8	18	24	167	7.0	71	964	49.5		
令和4年12月	46	20	692	34.6		2	8	13	1.6		3	12	36	3.0	19	25	160	6.4	70	901	45.6		
令和5年1月	46	19	677	35.6		2	8	15	1.9		3	11	33	3.0	19	23	158	6.9	70	883	47.4		
令和5年2月	47	19	690	36.3		2	7	9	1.3		3	12	25	2.1	19	22	147	6.7	71	871	46.4		
令和5年3月	47	22	815	37.0		3	8	10	1.3		3	14	28	2.0	18	26	188	7.2	71	1,041	47.5		
合計	562	243	8,522	421.6		30	96	201	25.3		51	147	530	43.7	215	293	2,010	82.3	858	11,263	572.9		
平均	46.8	20.3	710.2	35.1		2.5	8.0	16.8	2.1		4.3	12.3	44.2	3.6	17.9	24.4	167.5	6.9	71.5	938.6	47.7		
平均利用率	92.5%					35.1%					60.7%					68.6%							
令和3年度合計	560	233	8,126	417.3		42	94	293	37.4		72	139	667	57.3	212	278	2,150	92.7	886	11,236	604.7		
令和3年度平均	46.7	19.4	677.2	34.8		3.5	7.8	24.4	3.1		6.0	11.6	55.6	4.8	17.7	23.2	179.2	7.7	73.8	936.3	50.4		

月	短期入所					日中一時支援					相談支援事業				
	開所日数	延利用日数	1日平均	延利用人数	1日平均	開所日数	1日平均	時間合計	件数	新規(件数)	1日平均	カーパス時間(件数)	開所日数	延利用日数	1日平均
令和4年4月	30	23	0.8	41	1.4	154	27	999	8	37.0	89				
令和4年5月	31	24	0.8	43	1.4	150	25	842	10	33.6	75				
令和4年6月	30	26	0.9	30	1.0	107	28	943	5	34.3	79				
令和4年7月	31	24	0.8	49	1.6	171	28	969	7	34.6	50				
令和4年8月	31	19	0.6	55	1.8	228	28	854	5	30.5	70				
令和4年9月	30	27	0.9	40	1.3	157	26	864	8	33.2	61				
令和4年10月	31	25	0.8	39	1.3	154	27	803	9	29.7	72				
令和4年11月	30	20	0.7	38	1.3	128	26	943	5	36.3	80				
令和4年12月	31	25	0.8	46	1.5	195	26	1031	8	39.7	72				
令和5年1月	31	25	0.8	42	1.4	164	25	902	11	36.1	64				
令和5年2月	28	21	0.8	39	1.4	132	22	829	4	37.6	76				
令和5年3月	31	24	0.7	55	1.7	226	28	855	4	30.5	82				
合計	365.0	283.0	9.4	517.0	17.1	1,966.0	316.0	10,834	84.0	413.1	870				
平均	30.4	23.6	0.8	43.1	1.4	163.8	26.3	903	7.0	34.4	73				
平均利用率															
令和3年度合計	365	339	11.2	464	15.2	1,697	318	12,278	88	462.5	899				
令和3年度平均	30.4	28.3	0.9	38.7	1.3	141.4	26.5	10,230	7.3	38.5	75.0				

令和4年度KOCO-ジヤム 利用状況一覧

月	短期入所			基幹相談支援事業				生活介護事業				居宅介護事業				ケアホームひかり				ケアホームこの葉			
	開所 日数	延利用 人数	1日 平均	開所 日数	件数	新規	1日平均	契約 人数	開所 日数	延利用 日数	1日 平均	派遣 時間	利用 人数	稼働 ヘルパー	開所 日数	契約 人数	延利用 人数	1日 平均	開所 日数	契約 人数	延利用 人数	1日 平均	
令和4年4月	30	0	0.0	25	418	21	16.7	15	20	280	14.0	543.00	47	20	30	12	320	10.7	30	15	362	12.1	
令和4年5月	31	0	0.0	23	396	10	17.2	15	19	255	13.4	551.75	52	22	31	12	325	10.5	31	15	341	11.0	
令和4年6月	30	0	0.0	26	422	16	16.2	15	22	294	13.4	476.00	56	22	30	12	341	11.4	30	15	375	12.5	
令和4年7月	31	0	0.0	25	295	10	11.8	15	20	264	13.2	581.25	57	22	31	12	330	10.6	31	15	355	11.5	
令和4年8月	31	0	0.0	26	335	11	12.9	15	22	240	10.9	538.75	50	19	31	12	308	9.9	31	15	332	10.7	
令和4年9月	30	0	0.0	24	335	9	13.9	15	20	253	12.7	581.50	53	21	30	12	317	10.6	30	15	326	10.9	
令和4年10月	31	0	0.0	25	380	6	15.2	15	20	264	13.2	587.00	55	20	31	12	326	10.5	31	15	369	11.9	
令和4年11月	30	0	0.0	24	301	6	12.5	16	20	273	13.7	671.25	59	22	30	12	328	10.9	30	15	336	11.2	
令和4年12月	31	0	0.0	24	278	8	11.6	16	20	274	13.7	583.00	57	22	31	12	315	10.2	31	14	298	9.6	
令和5年1月	31	4	0.1	23	295	6	12.8	16	19	273	14.4	568.00	63	22	31	12	310	10.0	31	14	300	9.7	
令和5年2月	28	6	0.2	22	218	3	9.9	16	19	279	14.7	543.50	62	21	28	12	303	10.8	28	14	296	10.6	
令和5年3月	31	6	0.2	26	243	2	9.3	16	23	333	14.5	646.75	64	22	31	12	347	11.2	31	13	328	10.6	
合計	365	16	0.5	293	3916	108	160.0	185	244	3282	5.0	6,871.75	675.0	255.0	365	144	3870	127.3	365	175	4018	132.3	
平均	30.4	1.3	0.0	24.4	326.3	9.0	13.3	15.4	20.3	273.5	13.5	572.6	56.3	21.3	30.4	12.0	322.5	10.6	30.4	14.6	334.8	11.0	
平均利用率											67.4%											73.5%	
令和3年度合計	365	163	5.5	293	3942	142	161.0	172	241	3073	153.2	6,284.8	569.0	233.0	365	140	3812	125.4	365	172	3971	130.4	
令和3年度平均	30.4	13.6	0.5	24.4	328.5	11.8	13.4	14.3	20.1	256.1	12.8	523.7	47.4	19.4	30.4	11.7	317.7	10.5	30.4	14.3	330.9	10.9	

